

2019年12月5日～4日

中村哲医師死亡

アフガンで銃撃、中村哲医師死亡 「ペシャワール会」現地代表、支援活動中

時事通信 2019年12月04日 22時05分



整備を支援した用水路の送水を祝う祝賀会に出席した中村哲医師（中央左）＝2017年1月19日、アフガニスタン東部（ペシャワール会提供）

アフガニスタンで人道支援活動を続けるNGO「ペシャワール会」（福岡市）の現地代表、中村哲医師（73）が4日、東部ナンガルハル州を車で移動中に銃撃を受け、死亡した。州当局者によると、一緒にいた同会スタッフの運転手や護衛のアフガン人ら5人も銃撃を受け死亡した。

同会事務局などによると、現地時間の4日午前7時ごろ、中村医師らは拠点にしている東部の都市ジャララバードを車で出発。約25キロ離れたかんがい用水路の工事現場へ向かう途中で銃撃された。

中村医師は右胸付近を1発撃たれ、ジャララバードの病院に搬送された。搬送当初は意識があり、首都カブール近郊の病院にへりて移送される予定だった。AFP通信によると、搬送中にジャララバードの空港で死亡したという。

中村医師は右胸付近を1発撃たれ、ジャララバードの病院に搬送された。搬送当初は意識があり、首都カブール近郊の病院にへりて移送される予定だった。AFP通信によると、搬送中にジャララバードの空港で死亡したという。



整備を支援した用水路の前に立つ中村哲医師＝2005年8月10日、アフガニスタン東部（ペシャワール会提供）

大使館で仮の葬儀が営まれたといい、同会メンバーらが現地入りする方向で調整している。

現地での移動は宿舎と作業現場に限るなど対策を講じていたという。同会関係者は、これまで強盗は時折発生していたが、中村医師から身に危険が及ぶような報告はなかったとしている。

ペシャワール会の活動をめぐっては2008年、農業支援に取り組んでいたスタッフの伊藤和也さん＝当時（31）＝がアフガン人運転手と共に武装集団に拉致され、遺体で見つかる事件が起きた。

同会は事件後に日本人スタッフを引き揚げたが、中村医師は残って活動を継続。先月に一時帰国し、29日に現地へ戻ったばかりだった。

中村哲医師、銃撃され死亡 アフガン東部、同行5人も

2019/12/4 23:59 (JST) 共同通信社



中村哲医師

【イスラマバード共同】アフガニスタン東部ナンガルハル州ジャララバードで4日、同州で農業支援などに取り組む福岡市の非政府組織（NGO）「ペシャワール会」現地代表、中村哲医師（73）らが乗った車が武装した男らに銃撃され、中村さんが死亡した。日本政府関係者が明らかにした。州報道官によると、中村さんのボディガードや運転手ら5人も死亡した。

事件が発生したのは午前8時ごろ。目撃者によると、不審な車2台が待ち伏せし、通り掛かった中村さんの車を両側から銃撃したという。

アフガンのガニ大統領は声明を出し、事件をテロと断定した。



中村哲医師を乗せていた車の窓を貫いた銃弾の痕跡＝4日、アフガニスタン東部ジャララバード（ロイター＝共同）

アフガンのガニ大統領は声明を出し、事件をテロと断定した。



アフガニスタン東部ジャララバードで中村哲医師が襲撃された現場。乗っていた車は窓が割れていた＝4日、アフガニスタン東部ジャララバード（ロイター＝共同）

アフガニスタン東部ジャララバードで中村哲医師が襲撃された現場。乗っていた車は窓が割れていた＝4日、アフガニスタン東部ジャララバード（ロイター＝共同）

アフガンで銃撃、中村哲医師が死亡 現地で人道支援

朝日新聞デジタル 2019年12月4日 16時49分



アフガニスタン東部ジャララバードで4日朝、銃撃された車両。日本の人道支援NGO「ペシャワール会」の現地代表で、医師の中村哲さんらが乗っていた（現地住民提供）

アフガニスタン東部ジャララバードで4日朝、銃撃された車両。日本の人道支援NGO「ペシャワール会」の現地代表で、医師の中村哲さんらが乗っていた（現地住民提供）



アフガニスタン東部ナンガルハル州の州都ジャララバードで

4日朝、同国で人道支援に取り組んできたNGO「ペシャワール会」(事務局・福岡市)の現地代表で、医師の中村哲さん(73)の乗った車が何者かに銃撃された。州政府によると、中村さんや運転手ら計6人が死亡した。

長く医療支援や灌漑(かんがい)工事を続けてきた中村さんは10月、同国から名誉市民権を授与されたばかりだった。2008年に日本人スタッフ(当時31)が殺害される事件があったため、警備員を付けて活動していた。

同国では政情不安定化を狙って武装勢力が国際NGOや外国機関を攻撃する事件が後を絶たない。4日正午時点で犯行声明は出ていない。

州政府幹部によると、中村さんは地元病院で応急処置を受けたが、腹などに複数の銃撃を受けて死亡したという。

同会によると、同日午後1時前に現地スタッフから中村さんが負傷したという連絡が入った。現地時間の同日朝、アフガン東部で進めている灌漑(かんがい)工事の現場に車で向かう途中、銃撃を受けたという。

アフガンで銃撃、医師の中村哲さん死亡…正体不明の武装集団

読売新聞 2019/12/04 23:31



中村哲さん



4日、銃撃された日本人医師の中村哲さんを乗せていた車を調べる治安部隊(アフガン東部ジャララバードで、AFP時事)

【カイロ=酒井圭吾】アフガン東部ナンガルハル州の州都ジャララバードで4日、日本人医師で民間活動団体(NGO)「ペシャワール会」現地代表の中村哲さん(73)らを乗せた車が武装集団に銃撃された。州報道官によると、中村さんは病院で治療を受けたが、死亡が確認された。運転手ら5人も死亡した。

現場目撃者への取材によると、中村さんが乗っていた車は4日朝、前方に割り込んできた正体不明の武装集団の車に無理やり止められた。車から出てきた4人が中村さんの車に向かって発砲し、逃走した。住民が駆け寄ったところ、運転手や警備員らは既に死亡していた。

アフガン軍報道官によると、中村さんは州内の病院で治療を受けた後、首都カブール北方のバグラム空軍基地にヘリコプターで移送される途中、死亡した。中村さんの胸部付近の2か所に銃弾を受けた痕があったという。

犯行声明は確認されていない。アフガンでは、旧支配勢力タリバンのほか、タリバンと対立するイスラム過激派組織「イスラム国」も頻りにテロを起こし、治安は安定していない。タリバンのムジャヒド報道官は4日、ツイッターで関与を否定する声明を出

した。

中村さんは1946年、福岡市生まれ。九州大医学部を卒業後、84年、現地からの派遣要請を受けて、パキスタン北西部のペシャワールでハンセン病患者の診療を始めた。アフガンにも医療活動を広げ、2000年以降は大干ばつに見舞われたアフガンで、井戸や農業用水路の整備にも取り組んできた。1996年には第24回医療功労賞(読売新聞社主催)を受賞した。

アフガン大統領府は4日、「我々の国に対する彼の努力に対し、国民はその貢献を忘れることはない。安らかにお休みください」とのガニ大統領の声明を発表した。

中村医師、銃撃され死亡 アフガンで活動中 医療・農業支援に尽力

毎日新聞 2019年12月5日 東京朝刊



日本の技術を利用して整備された水路の前に立つ「ペシャワール会」の中村哲さん＝アフガニスタン東部ジャララバード郊外で2016年11月、共同

アフガニスタン東部ナンガルハル州の当局者によると、州都ジャララバード近郊で4日朝、現地で農業支援などに取り組んでいる福岡市のNGO「ペシャワール会」現地代表で医師の中村哲(てつ)さん(73)が乗った車が武装集団に襲撃された。中村さんは負傷し、病院に搬送された後に死亡した。州当局者によると、運転手のアフガニスタン人男性ら一緒にいた5人も全員死亡したという。犯行声明は出ていない。【佐野格、石井尚、ニューデリー=松井聡】

同会などによると、銃撃があったのは現地時間の4日午前8時(日本時間同日午後0時半)ごろ。中村さんは…残り 881 文字 (全文 1140 文字)

死亡の中村哲医師、移動中に車襲われ 窓に銃弾3発

日経新聞 2019/12/4 23:29 (2019/12/5 1:51 更新)

【イスラマバード=共同】車に近づいてきた男らが突然、自動小銃で銃撃を始めた。車の窓ガラスは粉々になり、車内や道路には赤い血が広がった。福岡市の非政府組織(NGO)「ペシャワール会」現地代表の医師、中村哲さんが4日銃撃されたアフガニスタン東部ナンガルハル州ジャララバード。発生直後の厳戒態勢が窺かれた状況を、ロイター通信などが伝えた。



中村哲医師を乗せていた車の窓を貫いた銃弾の痕跡(4日、アフガニスタン東部ジャララバード)＝ロイター

4日朝に銃撃が起きた現場は、店舗の前を走る道幅の広い舗装道路。地元記者などによると、武装した男らが車に近づき、最初にボディガードを自動小銃で銃撃。その後、運転手や中村さんを

次々と撃って車で去った。

中村さんらが乗っていたとみられる白いピックアップトラックは、フロントガラスとみられる窓に3発の銃弾が貫いた跡があり、一部のドアの窓は完全に割れていた。

中村さんは口や腕にチューブをつながれた状態で担架に乗せられ病院へ。青い医療服にマスクを着けた病院関係者が険しい表情を見せた。

車両周辺には血が広がり、男性が水をかけ、ほうきで洗い流していた。銃を持った治安当局者が警戒に当たり、市民が心配そうに見守った。

地元記者は「アフガンのために尽力してくれた中村さんが殺害され、やるせない気持ちだ」と語った。

中村哲医師、アフガンで銃撃され死亡 現地で人道支援

日経新聞 2019/12/4 17:35 (2019/12/4 21:45 更新)



医師の中村哲さん

アフガニスタンで医療や灌漑(かんがい)事業などの人道支援に取り組む非政府組織(NGO)「ペシャワール会」(福岡市)の中村哲医師(73)が4日、現地で銃撃され、死亡した。ペシャワール会が明らかにした。

アフガニスタン東部ナンガルハル州の報道官によると、中村さんのボディーガードや運転手ら5人も死亡したという。

ペシャワール会によると、中村さんは現地時間の4日朝、アフガン東部の都市ジャララバードにある宿舎から、北東方向に25キロほど離れた灌漑(かんがい)用水の改修工事現場に向かった。その途中で何者かが車両を銃撃。中村さんは右胸付近に被弾し、ジャララバードの病院に搬送され、手術を受けたが死亡した。

中村さんらを襲った人数や性別などは不明。同国での移動時は通常、護衛用の車が同行しているが、当時の状況はよく分かっていないという。

中村さんは同会の現地代表のほか、PMS(平和医療団・日本)の総院長を務める。2003年から深刻な干ばつで苦しむ東部のナンガラハル州で水路建設を開始。年間の半分以上は現地に滞在し、農業振興に取り組んでいた。

反政府武装勢力のタリバン関係者は4日、日本経済新聞の取材に「今回の日本人の攻撃には関与していない」と語った。ただアフガニスタンにはタリバンのほか、過激派組織「イスラム国」(IS)など20強のテログループが活動しているとみられ、地域情勢が不安定になっている。

安倍晋三首相は4日夜、中村さんの死亡を受け「ショックだ。心からご冥福をお祈りしたい」と述べた。「危険で厳しい地域で命懸けで様々な業績を挙げ、アフガンの人々からも大変な感謝を受けていた」と評価した。首相官邸で記者団に語った。

菅義偉官房長官は4日の記者会見で、外務省に領事局長をトップとする対策室を、在アフガニスタン日本大使館に現地対策本部をそれぞれ設置したと明らかにした。「さらなる情報収集をして

いる。誰から銃撃されたとの情報はまだ得ていない」と語った。中村さんは福岡県出身。1984年にアフガンとの国境付近にあるパキスタンのペシャワールの病院にハンセン病の医師として赴任した。同国やアフガンで医療支援活動を続けてきた。

2000年からはアフガンで発生した大干ばつ対策のため井戸掘りなどの事業を開始。03年からは同国東部で水路の建設も始め、これまで約1万6500ヘクタールの土地に水を供給した。

03年には「アジアのノーベル賞」と言われるマグサイサイ賞を受賞したほか、今年10月にはアフガン政府から市民証(名誉市民権)を授与された。

ペシャワール会は1983年に中村さんの医療活動を支援する目的で設立されたNGO。2008年、アフガンで農業支援に取り組んでいたスタッフの伊藤和也さん(当時31)がアフガン人の運転手と共に拉致され、遺体で見つかる事件が起きた。事件後、同会は日本人スタッフを帰国させたが、中村さんは現地に残り活動を続けていた。

中村哲医師が死亡 アフガンで銃撃、車同乗の5人も

産経新聞 2019. 12. 4 16:48

アフガニスタン東部ナンガルハル州ジャララバードで4日午前、現地で農業支援などの活動をしていた日本人医師、中村哲さん(73)の乗る車が武装勢力に銃撃された。州政府報道官によると中村さんは銃弾を受けて地元病院に運ばれたが、その後死亡が確認された。

地元警察によると、車に同乗していたボディーガードと運転手のアフガン人5人も銃撃で死亡。犯人は現場から逃走し、警察当局が行方を追っている。犯行声明は出ていないがイスラム原理主義勢力タリバンは関与を否定する声明を発表。イスラム教スンニ派過激組織「イスラム国」(IS)の関与が疑われている。

中村さんは同日朝に宿舎を出発して、25キロほど離れた用水施設の工事現場に向かうため、ジャララバード市内を車で移動中だった。車のフロントガラスには、少なくとも3発の銃弾の痕が残っているのが確認されている。

中村さんは右胸に銃弾を受けたが、地元病院に搬送された当初は意識があった。その後、首都カブールで治療を受けるため、カブール北方のバグラム米空軍基地に搬送される途中に死亡したという。

アフガンのガニ大統領は4日、声明を発表し、事件をテロと断定。哀悼の意を示した上で、「人々は彼の仕事をいつまでも覚えているだろう。このような残虐行為は、アフガンの進歩と繁栄のために働くという国民と国際的パートナーの決意を阻止することはできない」と強調した。

中村さんは非政府組織「ペシャワール会」(福岡市)の現地代表で、貧困層への医療支援や灌漑(かんがい)事業の指導などを行い、2018年にアフガン政府から勲章を授与された。

アフガンでは08年、同じくペシャワール会の日本人、伊藤和也さんがジャララバード近郊で武装グループに拉致され、後に遺体で見つされた。

(シンガポール 森浩)

中村哲医師 撃たれ死亡 アフガン支援活動中



【バンコク＝北川成史】アフガニスタンで人道支援に取り組んできた福岡市の非政府組織（NGO）「ペシャワール会」現地代表、中村哲（てつ）医師（73）が四日、同国東部ナンガルハル州の州都ジャララバードを車で移動中に銃撃され、死亡した。同乗していた運転手や警備員ら五人も死亡したという。

AFP通信などによると、襲撃は四日午前八時ごろ発生。中村さんらは灌漑（かんがい）工事の現場に車で向かう途中だったとみられる。中村さんは右胸を撃たれ、現地の病院で手当を受けた後、治療のため首都カブール近郊のバグラム米空軍基地に搬送される前に、ジャララバードの空港で死亡したという。

パキスタンに近いアフガン東部は反政府武装勢力タリバンに加え、過激派組織「イスラム国」（IS）の地域組織などが活動し、治安が悪化している。今回の事件の犯行声明は確認されていない。タリバンの報道官は「復興支援に取り組むNGOとは良い関係にあり、攻撃の対象ではない」と関与を否定した。

中村さんはアフガンで医療支援のほか干ばつ対策などに取り組んできた。十月にはガニ大統領から、名誉市民権を授与されている。

ガニ大統領の報道官セディク・セディキ氏はツイッターで「（中村さんは）アフガン国民の生活を変えるため人生をささげてきた」とし、犯行を強く非難した。

中村さんはアフガンでの復興支援活動の現状を伝える「アフガンの地で」を二〇〇九年六月から一四年五月まで二十回以上にわたって本紙「こちら特報部」で連載。干ばつ被害の深刻なアフガンで用水路の建設に奮闘し、少しずつ肥沃（ひよく）な土地を取り戻していく様子を報告し、現地で感じた苦悩や喜びをつづった。

アフガニスタンで銃撃された中村哲医師死亡

NHK12月4日 18時23分



アフガニスタンで長年、農業用水路の建設など復興に携わってきた医師の中村哲さんが4日、東部ナンガルハル州を車で移動中に何者かに銃撃され、病院で手当を受けていましたが、死亡しました。病院の担当者はNHKの取材に対し、「病院に運ばれてきた時、中村さんの容体は悪く、すぐに手術が必要な状態だった」と明らかにしました。



アフガニスタン東部ナンガルハル州の警察などによりますと、福岡市のNGO「ペシャワール会」の現地代表の医師、中村哲さん（73）が現地時間の4日午前、日本時間の4日午後、ナンガルハル州の州都ジャララバードを車で移動中に、何者かに銃撃されました。

中村さんはけがをして病院で手当を受けていましたが、病院関係者や地元の当局者によりますと、その後、死亡が確認されたということです。

地元の当局者はNHKの取材に対し、中村さんは治療を受けるため、ナンガルハル州の病院から首都カブール近郊にあるアメリカ軍のバグラム空軍基地に搬送される途中で死亡が確認されたことを明らかにしました。

また中村さんが手当を受けていたナンガルハル州の病院の広報担当者はNHKの電話取材に対し、「病院に運ばれてきた時、中村さんの容体は悪く、すぐに手術が必要な状態だった。腹部には銃弾2発が撃ち込まれていた。担当した医師によると、集中治療室で治療を行い、容体はいったん安定したもの、その後、地元の空港に搬送される途中で亡くなった」と話しています。

地元の警察などによりますと、同乗していた運転手や警備員など5人も死亡したということです。

中村さんはアフガニスタンで長年、農業用水路の建設など復興に携わってきました。

現場となったアフガニスタン東部はイスラム過激派の活動が活発な地域で、最近では反政府武装勢力タリバンに加え、過激派組織IS＝イスラミックステートの地域組織が台頭し、治安が悪化していました。

事件の発生を受けて、タリバンは声明を出し、「今回、ジャララバードで起きた事件について関与を否定する。日本のNGOはわれわれの土地でこれまで復興支援に取り組んできており、攻撃の対象にしたことは一切ない」として、犯行への関与を否定しました。

中村哲さんの長男「ことば見あたらない」

中村哲さんの長男の中村健さんは4日夜、報道各社に対し、「柳川市の自分の職場でニュースで知りました。今は何もことばが見あたりません」と述べました。

中村哲さんのいとこ「残念」



中村哲さんのいとこで北九州市若松区に住む玉井史太郎さん（82）は「治安が悪い中で心配していたが、こういう結果になり残念だ。歯がゆくて誰がやったのか、怒りの持っていく方がない。やった仕事は日本の良心を世界に発信する仕事と思うので、それが今後、生かされていけばいいと思う」と話していました。

交流のある医師「ショック」

静岡市に本部を置くアフガニスタン復興の支援活動をしているNGO「カレーズの会」に所属し中村さんと交流のあるアフガニスタン出身のレシャード・カレド医師はNHKの電話インタビューに対し「驚いています。3年前に中村さんと話したときには、

『アフガニスタンの人たちを救いたい』と話していました。中村さんとはアフガニスタン支援の仲間だったのでショックを受けています」と話していました。

そして中村さんが撃たれたジャララバードについては「治安が悪いところだ」と話していました。

中村さん 現場近くの病院からカブールへ搬送



中村さんは銃撃を受けてけがをしたあと、現場近くのナンガルハル州の病院に搬送されました。

この後、首都カブール近郊に移されることになり、NHKの取材班が現地で撮影した映像では中村さんがストレッチャーに乗せられ、救急車でカブールに向けて出発する様子が確認できます。ナンガルハル州の病院で、中村さんの治療に当たった医師がNHKの取材に対し明らかにしたところによりますと中村さんは病院から運び出される際には意識はあったということです。

現場の映像からは



通信社のロイターやAPが配信した事件現場の映像では市街地の舗装された路上に中村さんが乗っていたとみられる白いピックアップトラックが止まっています。

車のフロントガラスに銃弾によってあいたと見られる3つの穴があるほか、運転席側の窓ガラスが粉々に割れています。

現場に居合わせた男性は当時の状況について「警備員や運転手、そして日本人に対して銃撃があった。日本人の男性は頭をあげた時に負傷した。そして周囲が『彼はケガをしている。搬送しよう』と言ったら襲撃犯が武器を向けて『動くな』と言ってきた」と証言しました。

車体の周りには治安当局者が集まり、状況を調べていました。

ナンガルハル州 イスラム過激派の活動が活発な地域



中村さんが銃撃されたアフガニスタン東部のナンガルハル州はパキスタンと国境を接する山岳地帯を拠点として、イスラム過激派の活動が活発な地域です。

2001年にアメリカで起きた同時多発テロ事件のあと、事件の首謀者とされた国際テロ組織「アルカイダ」のオサマ・ビンラディン容疑者やメンバーが潜伏している可能性があるとして、アメリカ軍などによる大規模な掃討作戦が行われました。

ここ数年は過激派組織IS＝イスラミックステートの地域組織が活動を活発化させているほか、ISと対立する反政府武装勢力タリバンもテロや襲撃を繰り返し、治安の悪化に歯止めがかから

ない状態が続いています。

現地に駐留するアメリカ軍やアフガニスタン政府の治安部隊は、イスラム過激派が潜んでいるとして山岳地帯を中心に空爆を繰り返して、去年まで3年連続でISの地域組織のトップが殺害されています。

一方で、空爆に住民が巻き込まれて犠牲になる被害も相次ぎ、アメリカ軍などに対する反発も強まっています。

アフガニスタン初の外国人の名誉国民

中村哲さんはアフガニスタンで農地の再生などに取り組んでいる福岡市のNGO「ペシャワール会」の現地代表の医師です。福岡市出身で35年前、パキスタンのペシャワールに赴任したのをきっかけにパキスタンと隣国のアフガニスタンで医療支援を行ってきました。

16年前からは干ばつで苦しむアフガニスタンの人たちを助けようと用水路の整備など、農地の再生にも取り組んできました。こうした活動が評価されて中村さんはアフガニスタン政府から名誉国民に認定され、ことし10月、市民証が授与されました。アフガニスタンで外国人が名誉国民として認められるのは初めてで、中村さんはビザなどがなくても現地で活動を行うことが認められていました。

中村さんは、2003年には「アジアのノーベル賞」とも言われるフィリピンのマグサイサイ賞を贈られました。また2009年には「福岡市市民国際貢献賞」を贈られ、中村さんは授賞式でアフガニスタンの状況について、「干ばつが難民化を招き治安が悪くなっている。医療活動以前の問題だ。水と食べ物があればほとんどの病気が予防できるので、干ばつ問題に取り組んできた」としたうえで、「治安の悪化で一時的に活動ができなくなるかもしれないが、現地での仕事は続けていきたい」と話していました。

「軍事作戦よりも農業復興」



中村さんはこれまで、地元の福岡県で報告会や講演などをたびたび行ってきました。

平成28年、福岡市の西南学院大学で開かれた報告会ではアフガニスタンの用水路の建設に、江戸時代に筑後川で築かれた「山田堰」の治水技術が用いられていることを紹介しました。

そのうえで「軍事作戦よりも農業復興を進めていくべきだ。日本で現地の活動をサポートする人材を育てていく必要がある」と訴えていました。

去年、山田堰のある福岡県朝倉市をアフガニスタンの現地スタッフとともに訪問した際には取材に対し、「昔の日本の農業が生産性の改善につながることを期待したい」と話していました。

また平成28年、福岡市中央区で企業の社員や自治体の職員らに講演を行った際にはアメリカによるアフガニスタンへの攻撃で多くの子どもや女性が犠牲になったと批判するとともに、「アフガニスタンの多くの人が願っているのは1日3回の食事を取ることと、ふるさとに家族と住めるようになることです」と指摘していました。

中村さんとペシャワール会

中村さんが現地代表を務めている福岡市の国際NGO「ペシャワール会」は1983年9月に中村さんのパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。

16年前からは干ばつで苦しむ隣国アフガニスタンの人々を助けようと、用水路の整備など、農地の再生にも取り組んできました。

アフガニスタンのガニ大統領はこうした活動を高く評価し、中村さんを名誉国民と認め、ことし10月に市民証を授与していました。

また、中村さんは、紛争が絶えないアフガニスタンから逃れた難民の支援にも力を尽くし、2003年にはアジアの発展に貢献した人や団体に贈られるマグサイサイ賞を受賞しています。

授賞式で中村さんは「戦争反対と言うと、直ちに反米的だなどと言われる世の中でも、素直に私たちの平和への思いを評価してくれたことが非常にうれしかった」として喜びを述べていました。中村さんは日本とアフガニスタンの間を頻繁に行き来し、ペシャワール会によりますと、最近では、先月帰国して、山口県の東亜大学で「アフガニスタンに命の水を」というテーマで講演を行っていました。

そして先月29日に日本をたち、アフガニスタンに戻ったばかりでした。

国連支援団がツイッターで非難

現地で活動している国連のアフガニスタン支援団はツイッターに声明を発表し、「広く尊敬されている日本の中村医師が殺害されたことはおぞましく、糾弾する。アフガニスタンの弱い立場の人々を助けるために人生をささげた、彼に対する愚かな暴力だ」と非難しました。

外務省 死亡を確認



外務省幹部は午後5時半すぎ、記者団に対し「地元当局から、日本の大使館に対して『中村さんが亡くなった』という連絡があり、それをもって外務省としても死亡を確認した。心からお悔やみを申し上げたい。今後、ご家族などに対して、できるかぎりの支援を行っていきたい」と話しています。

外務省は、当時の詳しい状況や事実関係について、地元当局と連絡を取るなどして確認を急いでいます。

政府高官 死亡を確認

政府高官は午後6時前、記者団から「中村さんの死亡を政府として確認したのか」と問われたのに対し、「確認した。最初から厳しいと思っていた。亡くなった場所や誰に襲われたのかは分からない」と述べました。

【報ステ】アフガニスタンで銃撃 中村哲医師が死亡

ANN2019/12/04 23:30

アフガニスタン東部ジャララバード近郊で、医師の中村哲さん(73)を乗せた車が何者かに銃撃され、中村さんと同乗していたドライバー、ボディガードなど合わせて6人が亡くなった。中

村さんは毎朝7時過ぎに宿舎を出発し、車で30分ほどの場所にある作業現場へと移動していた。ルートは毎回変え、全部で3台の車に分乗し、細心の注意を払っていたという。中村さんは撃たれた直後、意識はあったが、その後、息を引き取った。中村さんがアフガニスタンで活動を始めたのは今から30年前。医療団の一員として医師のいない山岳地帯などで診療を続けてきた。しかし、活動を続けるなかで「医療だけでは人の命は救えない」という思いを強めていった。2000年にアフガニスタンを襲った大干ばつで、農地が壊滅的な打撃を受け、人々は栄養失調となった。水不足のため、汚い水を飲んだ子どもたちの間で赤痢などの感染症が急速に広がり、多くの子どもたちが命を落とした。中村さんは子どもたちを助けたい一心で、村人たちとともに井戸を掘った。この次に用水路の建設にも取り組んだ。用水路から引き込まれた水によって、乾いた土地は徐々に蘇っていった。中村さんは4日、農地に水を引く工場の現場へ向かっているとところ襲われた。今のところ何かを取られたり、どこかが犯行声明を出したという情報はない。タリバンはこの件に関して、「我々の関与を否定する。日本のNGOは、我々の土地でこれまで復興支援に取り組んできており、攻撃の対象にしたことは一切ない」とコメントしている。

銃撃され中村医師が死亡 アフガニスタンで人道支援

ANN2019/12/04 20:30

アフガニスタンで人道支援を続けている医師の中村哲さん(73)が、現地で銃撃を受けて死亡しました。現地の州政府高官が明らかにしたものです。

アフガニスタンで4日、福岡市のNGO(非政府組織)「ペシャワール会」の現地代表の医師・中村哲さんが現地を車で移動中、何者かによって襲撃されました。

ペシャワール会:「中村は右胸に銃弾を1発受けたと、受けた直後、意識はあったということで、その後、ジャララバードの病院に移送されて、そこで手術を受けていると、とりあえず命に別状はないと聞いております。ドライバーは33歳、まだ若い青年ですけど、彼が被弾して亡くなったという知らせがきています」

中村さんは長年、アフガニスタンで農業用水路の建設などの復興に携わっています。事件当日は朝、宿舎から作業地へ移動中に襲われたとみられます。

ペシャワール会:「襲撃者については、単なる物とりの強盗なのか政治的な意図を持った人たちであるのか分かっておりません。武装したガードがついて移動するというふうになっており、毎回、経路を変えながら移動すると、セキュリティについては常に神経を使っております」

中村さんたちは、2000年から大干ばつが起きていたアフガニスタンで約1600本の井戸を掘りました。また、農業用水の建設なども中村さんが先頭となってやっていました。

ペシャワール会の会見:「中村、73歳ですけども、現場に出しております。ドクターですけども、ただ指示を与えるだけでなく、土木作業も先頭に立ってやってきております」

アフガニスタンに広がる田畑。これらは中村さんらの存在なしには成し得なかったものです。現地の人たちにも尊敬されていた中村さん。アフガニスタンの大統領から市民賞を授与されました。

ペシャワール会:「(Q.怒りは?) 誰にぶつけていいのか分から

ない」

中村医師銃撃され死亡 運転手ら5人も死亡

NNN2019年12月4日 21:37

アフガニスタンで人道支援に取り組んできた医師の中村哲さんが4日、何者かに銃撃され死亡した。

現地当局などによると、アフガン東部のナンガルハル州で4日、中村哲さんを乗せた車が何者かに銃撃された。中村さんは病院に搬送されたが、その後、死亡が確認された。また、この銃撃で運転手やボディーガードなど5人も死亡した。

医師の中村さんは福岡市のNGO「ペシャワール会」の現地代表を務め、アフガンでおよそ30年にわたり人道支援に取り組んできた。ノーベル平和賞の候補として名前があげられたほか、ことしにはアフガン大統領から名誉市民権を授与されていた。

ペシャワール会の会見「とにかく信じられない。中村医師は9月で73歳になるが、あと20年やると言っていた」

現場となったアフガン東部は反政府勢力「タリバン」や過激派組織「イスラム国」などによるテロが頻発し、治安の悪化が深刻な地域だった。ただ、タリバンは今回の事件について関与を否定している。日本政府は事件後、現地に対策本部を設置し対応にあたっている。

中村医師銃撃死 アフガンに寄り添い 苦しむ人のため 妻の心配、現実に

毎日新聞2019年12月5日 東京朝刊



用水路の建設に携わる中村哲さん(左)＝アフガニスタン東部のカマ郡で2008年(ペシャワール会提供)

戦乱と干ばつで荒れたアフガニスタンの地に水を引き、実りの畑に変えてきた日本人医師が、銃弾に倒れた。福岡市のNGO「ペシャワール会」現地代表の中村哲さん(73)。人道支援に力を注ぎ、武力に頼って争う世界に異議を唱え続けた中村さんの突然の悲報に、関係者や家族は言葉を失った。

「正直なところ信じられない。無念だ」。4日午後5時半過ぎ、福岡市中央区のペシャワール会事務局で、同会理事の福元満治さん(71)は、厳しい表情で言葉を絞り出した。その約1時間前、中村さんの死亡情報が飛び込んでいた。

福元さんは、中村さんと約30年前から苦楽をともにしてきた。戦乱や干ばつの深刻化で苦しむアフガニスタ...

残り1374文字(全文1667文字)

「悲しいばかりです」 中村哲医師の妻、悲報に涙

日経新聞2019/12/4 18:24 (2019/12/4 20:19更新)

アフガニスタンで銃撃され死亡した中村哲医師(73)の訃報を受け、妻の尚子さん(66)は、福岡県大牟田市の自宅で取材に応じ

「悲しいばかりですよ。残念です。きょうみたいな日がこないことだけを祈っていた」と涙を拭いながら語った。

「場所が場所だけにあり得ると思っていた。家にずっといてほしかったけど、本人が(活動に)懸けていたので……」とも述べた。中村さんが11月下旬まで2週間ほど帰省していたことを振り返り「家では厳しくなかった。いつもさらっと出て行ってさらっと帰ってくる人だった」としのんだ。

三女の幸さん(27)も襲撃の一報に触れた直後「これまでの活動で銃撃されたのは初めて。いつ起きてもおかしくはないと覚悟していたが……」と落ち着かない様子だった。

作家火野葦平の三男で、中村さんのいとこの玉井史太郎さん(82)＝北九州市若松区＝は取材に「あれだけアフガニスタンのために尽くしてきたのに、なぜ凶弾に倒れないといけないのか。怒りの持っていない場がない」と落胆した。

中村さんは小学1年まで同区で過ごしており、海外で活動するようになってからは年に1回ほど会い、今年8月には同区での講演を聞いた。「会って話をするたびに、活動への熱意が伝わってきた。彼には素朴な正義感があった。こんな事件が起こるとは」と悔やんだ。〔共同〕

焦点 中村医師銃撃死 狙われる援助団体 厳重警護、守り切れず

毎日新聞2019年12月5日 東京朝刊

アフガニスタンで医療・農業支援に取り組んできた福岡市のNGO「ペシャワール会」の現地代表で医師の中村哲さん(73)が銃撃を受けて死亡した。アフガンでは今年、援助団体を狙った事件が相次いでいた。中村さんは現地政府や住民から深く信頼され、対策も取られていたが、事件は防げなかった。

銃弾が貫通した窓ガラス、道路に広がる血痕――。ロイター通信が配信した複数の写真には、襲撃事件直後の現場の生々しい様子が写っている。

中村さんらが乗っていたとみられる白色のピックアップトラックのフロントガラスには3発の銃弾の痕があり…残り2443文字(全文2698文字)

「憲法9条なくては日本でない」 「豊かさの考え変えないと」 中村哲さんの言葉

毎日新聞2019年12月4日 19時41分(最終更新 12月4日 19時42分)

中村哲さんは、これまで毎日新聞の取材にたびたび応じていた。人道支援や憲法9条の重要性などについて、自身の経験から数多くの言葉を残していた。【安藤いく子】

「100万発の銃弾より、1本の用水路の方がはるかに治安回復に役立つ。(日本政府は)米欧の軍事行動と一体と見なされない独自の民生支援を長期的に進めるべきだ」(2009年2月、オバマ米大統領＝当時＝がアフガニスタンへの増派を決めたことを受けての取材で)

「憲法は我々の理想です。理想は守るものじゃない。実行すべきものです。この国は憲法を常にながしるに…

残り511文字(全文763文字)

「武器でなく、私たちはクワで平和を実現しよう」中村哲さんの熱き言葉

毎日新聞 2019年12月4日 22時35分(最終更新 12月4日 22時35分)



地図を示してアフガニスタンの干

ばつ状況を説明する中村哲さん＝福岡市中央区春吉1のペシャワール会事務局で2018年11月16日、中村敦茂撮影

「武器を取る者は取れ。私たちはクワで平和を実現しよう。きざな言い方をすれば、そんな思いで続けています」。帰国している時の中村さんはぼくとつを絵に描いたような人だ。だが、言葉は熱い。大国による駆け引きの道具のような机上の和平案や見栄えだけの国際援助をばつさり切り捨て、時に文明論の様相も帯びた。現地の人々の命と、そのために行動することを最優先にした人だった。

作家の火野葦平は母方の伯父にあたる。火野の小説「花と竜」で、気の荒い港湾労働者をまとめ上げて生活向…
残り 821 文字 (全文 1051 文字)

中村哲さん「現地で神様のように慕われ…」 突然の悲報に関係者絶句

会毎日新聞 2019年12月4日 20時31分(最終更新 12月4日 23時15分)



用水路の建設に携わる中村哲さん(左)

＝アフガニスタン東部のカマ郡で2008年(ペシャワール会提供)

「誰も行かない所でこそ我々は必要とされる」との信念でアフガニスタンで長年にわたって人道支援に取り組んできた「ペシャワール会」の現地代表で医師の中村哲さん(73)を襲った銃弾。突然の悲報に関係者は絶句し、「現地で神様のように慕われていた」と悼んだ。

アフガニスタンや中東など世界の紛争地取材しているジャーナリスト、西谷文和さん(59)は「何十万の命を救った人を襲った卑劣な犯行で強い怒りを感じる。中村さんの活動は世界中で人道支援の手本とされてきた。アフガンにとっても世界にとっても大きな損失だ」と悔しがった。

西谷さんは2010年1月、アフガニスタンで中村さんに出会い、ペシャワール会が現地で整備していた用水…
残り 1644 文字 (全文 1949 文字)

評伝 中村医師銃撃死 「人間共通の心」に光

毎日新聞 2019年12月5日 東京朝刊

「武器を取る者は取れ。私たちはクワで平和を実現しよう。き

ざな言い方をすれば、そんな思いで続けています」。帰国している時の中村さんはぼくとつを絵に描いたような人だ。だが、言葉は熱い。大国による駆け引きの道具のような机上の和平案や見栄えだけの国際援助をばつさり切り捨て、時に文明論の様相も帯びた。現地の人々の命と、そのために行動することを最優先にした人だった。

作家の火野葦平は母方の伯父にあたる。火野の小説「花と竜」で、気の荒い港湾労働者をまとめ上げて生活向…
残り 807 文字 (全文 1037 文字)

世界の片隅、照らした半生 アフガンで死亡の中村哲医師

2019/12/5 2:00 日本経済新聞 電子版

「人として『これをすべきだ』というものは誰もが持っているんです。でも、それをさらけ出すのは恥ずかしい。特に九州の男はそうなんです」



ペシャワール会の中村哲医師は用水路建設など農業振興に取り組んでいた(アフガニスタン東部)＝ペシャワール会提供

昨年の夏、2日間にわたって中村哲さんにインタビューする機会があった。30年に及んだアフガニスタンでの活動を支えた信念は何か。そんな質問に対し、照れたような表情で答える姿が印象的だった。

もともと人道支援や国際貢献に強い関心があったわけではない。九州大医学部を卒業後、「好きな昆虫採集ができるかもしれない」と赴任したパキスタンでの体験が人生を変える。隣国アフガンに旧ソ連が侵攻し、多くの難民を目の当たりにした。

2000年にアフガンが大干ばつに直面すると、医療の限界を実感し、メスを捨て用水路建設に転じた。合言葉は「百の診療所より一つの用水路」。自ら設計図を書き、重機を操った。米軍のヘリに機銃掃射を受けたこともある。堤防を守るため増水した川に向かいながら、「これで死ぬれば本望だ」と口にしたという。

2010年に完成したマルワリード(真珠)用水路は約1万6千ヘクタールを潤し、約60万人の生活を支える。18年には同国の大統領から勲章も受けた。「ノーベル平和賞候補」とささやかれたこともある。

しかし本人はこうした周囲の声を気にする風はなかった。「治安は悪くなる。農地はどんどん砂漠化する。これでは満足できない」。世界の目がアフガンから離れても同国にとどまり続けた。彼にとって復興は道半ばだった。

08年にペシャワール会スタッフの伊藤和也さん(当時31)が現地で拉致され、遺体で発見された事件も心残りだったろう。本人は現地の治安や安全に細心の注意を払っただけに、今回の事件にはわからぬ信じがたい。

大切にしていた言葉は「一隅を照らす」。たとえ片隅であっても、自分がいる場所でできることを精いっぱいやる、という意味という。その言葉通り、アフガンに光をあて続けた人生だった。(石川淳一)

中村哲医師、アフガンで銃撃され負傷 運転手ら 5 人死亡 現地で支援活動

毎日新聞 2019 年 12 月 4 日 14 時 17 分(最終更新 12 月 4 日 17 時 41 分)



中村哲さん＝2016 年、内藤絵美撮影

アフガニスタン東部ナンガルハル州の当局者によると、州都ジャララバード近郊で 4 日朝、現地で活動している福岡市の NGO「ペシャワール会」代表で医師の中村哲さん(73) が乗った車が武装集団に襲撃された。中村さんは病院に搬送された。州当局者によると、運転手の男性ら同乗者 5 人が死亡したという。犯行声明は出ていない。

同会によると、銃撃があったのは 4 日午前 7～8 時で、中村さんはジャララバードから活動現場まで移動している最中だったという。【ニューデリー松井聡】

中村哲医師が死亡 アフガンで銃撃受け 右胸に銃弾 政治テロかは不明

毎日新聞 2019 年 12 月 4 日 17 時 34 分(最終更新 12 月 4 日 22 時 57 分)

アフガニスタン東部ナンガルハル州の当局者によると、州都ジャララバード近郊で 4 日朝、現地で農業支援などに取り組んでいる福岡市の NGO「ペシャワール会」現地代表で医師の中村哲(てつ)さん(73) が乗った車が武装集団に襲撃された。中村さんは負傷し、病院に搬送された後に死亡した。州当局者によると、運転手のアフガニスタン人男性ら一緒にいた 5 人も全員死亡したという。犯行声明は出ていない。

同会などによると、銃撃があったのは現地時間の 4 日午前 8 時(日本時間同日午後 0 時半) ごろ。中村さんはオフィスと宿舎があるジャララバードから約 25 キロ離れた、かんがい用水事業の活動現場まで四輪駆動車で移動中に何者かに襲われたという。中村さんは上半身に銃弾 2 発を受け、搬送先の病院で緊急手術を受けたが、その後、首都カブール北方のバグラム米空軍基地に運ばれる途中で死亡した。

州当局者によると、中村さんと共に襲撃されたのは運転手 1 人、ボディーガード 3 人と労働者とみられる乗客 1 人の計 5 人で、襲撃を受けた現場でほぼ即死の状態だったという。日本人は中村さん以外にいなかった。

4 日に福岡市の事務局で記者会見した同会の福元満治・広報担当理事は、襲撃の背景について「単純な物取りか政治的なものかは分からない」と述べた。一方、旧支配勢力タリバン系のムジャヒド報道官は 4 日、「襲撃には関与していない。この団体(ペシャワール会)は復興に関わっており、タリバンと良好な関係を持つ

ていた。(この団体の)誰も標的ではない」とコメントした。

一方、アフガニスタンのガニ大統領は声明を出し、事件を「非情なテロ」と強く非難。日本の駐アフガニスタン大使に電話で弔意を伝えたと明かしたうえで、「アフガン国民は彼の働きを決して忘れない」と中村さんの功績をたたえた。

中村さんは福岡生まれ。1973 年に九州大学医学部を卒業した。国内の病院勤務を経て、84 年にパキスタンで医療支援を始め、アフガニスタンへ拠点を移した。医療活動の一方、2003 年からは深刻な干ばつで苦しむ同国東部で用水路建設を開始。年間の半分以上は現地に滞在し、農業振興に取り組んでいた。同年には「アジアのノーベル賞」とも言われるマグサイサイ賞(平和と国際理解部門)を受賞した。今回は 11 月 16 日に一時帰国し、29 日に現地に向かったばかりだった。

ペシャワール会の活動では 08 年 8 月にも、アフガニスタン東部で農業支援をしていた伊藤和也さん(当時 31 歳)が武装集団に拉致、殺害された。【佐野格、石井尚、ニューデリー松井聡】



用水路の建設に携わる中村哲さん(左)

＝アフガニスタン東部のカマ郡で 2008 年(ペシャワール会提供) 海外で日本人が巻き込まれ死亡した主な事件(年齢・肩書は当時)

■2002 年 10 月 インドネシア・バリ島の爆弾テロで日本人夫婦を含む観光客ら 200 人以上が死亡

■2003 年 11 月 イラクで奥克彦さん(45)ら日本人外交官 2 人が殺害される

■2004 年 10 月 イラク旅行中の香田証生さん(24)が拉致、殺害される

■2005 年 10 月 インドネシア・バリ島の同時爆弾テロで旅行中の大学職員、川崎昭雄さん(51)を含む約 20 人が死亡

■2008 年 8 月 アフガニスタンで「ペシャワール会」スタッフの伊藤和也さん(31)が拉致、殺害される

■2008 年 11 月 インド・ムンバイの同時多発テロ事件で、出張中の会社員、津田尚志さん(38)を含む 160 人以上が死亡

■2013 年 1 月 アルジェリアの天然ガス関連施設が襲われ、ブランド建設大手「日揮」従業員ら日本人 10 人が死亡

■2016 年 7 月 バングラデシュ・ダッカのレストランが襲撃され日本人 7 人を含む 22 人が死亡

アフガニスタン 医師の中村哲さん銃撃 複数の男らの犯行か

NHK12 月 5 日 5 時 13 分



アフガニスタンで長年、農業用水路の建設など復興に携わってきた医師の中村哲さんが、4 日、何者かに銃撃され死亡したことについて、現地では追悼の声が相次いでいます。これまでのところ

犯行声明は出ていませんが、銃撃は、複数の男らによる犯行の疑いが強いことが地元の警察への取材で分かりました。



アフガニスタン東部のナンガルハル州ジャララバードで4日、福岡市のNGO、「ベジャワール会」の現地代表の医師、中村哲さん(73)が車で移動中に、何者かに銃撃されました。中村さんは、病院で手当を受けていましたが、その後、死亡が確認されました。

地元の警察などによりますと、この銃撃で、中村さんや、一緒にいた運転手や警備員など合わせて6人が死亡したということです。

中村さんは長年、農業用水路の建設など復興に携わりながら、地元の人たちとも積極的に交流を続けてきたことから、現地では追悼の声が相次いでいます。

現地時間の4日夜、ジャララバードでは追悼集会が開かれ、多くの人たちがろうそくに火をともし中村さんの死を悼むとともに、功績をたたえました。

農業をしている40代の男性は、「中村さんは、私たちの農地を洪水から守るために数え切れないほどの支援を続けてくれた。彼が亡くなったことを聞き、悲しい思いでいっぱいです」と話していました。

一方、今回の銃撃について、これまでのところ犯行声明は出ていませんが、その後の調べで、銃撃は3人から4人の複数の男らによる犯行の疑いが強いことが地元の警察への取材で分かりました。男らは、1台の乗用車に乗って中村さんたちを待ち伏せし、銃撃したあと、再び同じ車に乗って逃走したということです。警察は、中村さんをねらった計画的な犯行の疑いもあるとみて、詳しく調べています。

治療にあたった病院の担当者

中村さんの治療にあたったナンガルハル州の病院の広報担当者がNHKの取材に応じ、「中村さんが乗った車は午前8時ごろ、武装した何者かに襲われた。5人の遺体とけがをした中村さんが、私たちの病院に運ばれてきた」と当時の様子を説明しました。

また、中村さんの容体については、「腹部に2発の銃弾が撃ち込まれていて、救急処置を行ったが、さらなる治療のために首都カブールに移そうと、地元の空港に向かう途中、けがが原因で亡くなった」と述べました。

中村さんを救うため、ナンガルハル州の知事は、中村さんを至急、首都カブール近郊にあるアメリカ軍のバグラム空軍基地に搬送するよう指示していたということです。

10年来の親交の知人「今後、どう中村先生の遺志をつなぐか」
中村哲さんと10年来の親交がある福岡県朝倉市の徳永哲也さん(72)が4日夜、NHKの取材に応じ、「あれだけ命をかけてアフガニスタンの復興にかけている人をなぜ殺すのか、全く理解できません。悔しくてたまりません。こんなことは絶対にあってはならない」と話しました。

徳永さんは、中村さんがアフガニスタンの農地再生事業のモデル

とした、江戸時代のかんがい設備、朝倉市の山田堰を管理する土地改良区の元理事長で、ことし4月、中村さんと一緒におよそ10日間、アフガニスタンに滞在し現地を視察したということです。当時の様子について、徳永さんは「現地の農家の人たちは『中村先生は神様だ』と慕っていました。兵士など5人が24時間、中村先生を警護していたので、そういう環境の中で事件が起きるとは私には理解できません」と話していました。

中村さんの人柄については、「世間が広く、知識も深く、すごい人だなと感じていました。われわれとつきあうときも、偉ぶるわけでもなく、淡々とお話をしてくださいました。いろんな人に対しても、親切、丁寧に説明をして変わらないで接してくださいました」と話していました。

徳永さんは先月22日にも中村さんと福岡市で会い、今後の取り組みについて話を聞いたばかりだったということで、「われわれが、今後、どう中村先生の遺志をつなぐのか考えていけないと思います」と話していました。

母校の九大の学長「理不尽さに憤り」

中村哲さんは、昭和48年に九州大学医学部を卒業し、平成26年から九州大学高等研究院の特別主幹教授として、年に1回のペースで大学で講演会などを行い、ことしも8月5日に講演していました。

九州大学の久保千春学長は「成し遂げた事業の壮大さに強い感銘を受けるとともに、これまでの経験を通して感じた思いを、率直に丁寧に語られる姿に温かくて誠実な人柄を感じてまいりました。現地の復興のために尽力してこられた先生がこのような形で命を落とされることは痛恨の極みであり、その理不尽さに憤りを禁じえません。九州大学教職員・学生を代表し心からご冥福をお祈りいたします」とするコメントを出しました。

国連特別代表「功績は大きく、日本人として誇り」

国連アフガニスタン支援団のトップを務める山本忠通事務総長特別代表は、NHKの電話インタビューに対し、「まさか彼のような人が攻撃を受けるなんて思ってもおらず、驚くとともに腹が立った。亡くなられたのは、大変な損失だ」と述べ、中村さんの死を悼みました。

また、アフガニスタンの復興にあたる中村さんの姿勢について、「どうすればアフガニスタンの国民がよりよい人間らしい生活ができるかを考え、『困難な人々を助きたい』という純粋な気持ちで伝わる仕事をしてきた。アフガニスタンの人たちは中村さんを非常に尊敬していて、親しんでいた。功績は大きく、日本人として誇りに思う」と振り返りました。

そのうえで山本代表は、「中村さんは非常に謙虚であるとともに信念の強い人だった。中村さんが残した具体的な方法や、現地の一般の人たちを巻き込んで、一緒になって開発を進めるという考えは根づいていると思うので、それが受け継がれ、さらに広がっていくことを期待したい」と話していました。

10月に現地で活動の様子を取材

NHKはことし10月、アフガニスタンに建設された農業用水路を視察する中村哲さんの様子を現地で取材しました。

この時、視察した用水路は、中村さんが活動の拠点としている東部ナンガルハル州にことし2月、新たに完成しました。中村さんは、現地のNGOと連携しながら、用水路などの建設を進めたほ

か、地元の人たちとも積極的に交流していました。ただ、中村さんは、現地の治安状況を踏まえて、安全管理を徹底したうえで、視察に訪れていたということです。NHKの映像にも、今回、銃撃を受けた中村さんの車と同じナンバーの車が写っていて、その後ろには、銃を持った警備員が乗った車が同行しています。

また、現地では、山岳地帯の急激な雪どけなどによって、たびたび洪水が発生していましたが、中村さんは、国連と協力して訓練センターを立ち上げ、洪水で破壊された堤防や橋の修復を担う技術者の研修など、人材育成にも熱心に取り組んでいました。

中村さんは、NHKのインタビューに対し、アフガニスタンは、地球温暖化の被害が最も著しい国の1つだと指摘したうえで、「アフガニスタンは戦争では滅びないが、干ばつで滅びる可能性がある。すべての人が力を合わせてこの問題に取り組み、アフガニスタンの深刻な状態に目を向けることが大事だ」と述べ、国際社会に協力を呼びかけていました。

人道援助関係者の死傷者が増加

国連によりますと、アフガニスタン国内で死亡やけがをしたり、誘拐されたりした人道援助関係者の数は、ことし8月の時点で合わせて91人に上り、去年1年間の76人をすでに上回っています。このうち、ことし死亡した人は、27人に上るということです。

先月24日には、首都カブールで国連の車両をねらった爆発があり、アメリカ人1人が死亡しました。

脱貧困へ井戸1600本整備 中村哲医師 死亡

東京新聞2019年12月5日 朝刊

<評伝> 「武装勢力の怖さを感じたことはない。米軍とは距離を置いているから」。アフガニスタンで人道支援活動を長年続け、四日銃弾に倒れた福岡市のNGO「ペシャワール会」現地代表の医師、中村哲さん（73）。口癖のようにそう繰り返していたのは、アフガンの大地に根差し、市民の貧困脱却に貢献してきた自負があったからだ。

中村さんは福岡県出身。福岡高を経て九州大医学部で学んだ。登山が趣味で一九七〇年代にはパキスタンの七千メートル級高峰の登山隊に医師として同行。八四年に北西部ペシャワールでハンセン病患者の医療活動に携わったのが長いアフガン支援の始まりとなった。アフガン内戦の影響で多数の難民がペシャワールに流入。次第に関心はアフガンに向き、九一年に東部ナンガルハル州に診療所を開いた。

武装勢力に若者が加わるのは「貧困が背景にある。アフガンと平和には戦争ではなく、貧困解決が不可欠だ」との信念に基づき、支援の内容は医療から干ばつや貧困対策に徐々に移行。二〇〇〇年にアフガンが大干ばつに襲われた後、水不足や農地整備のため、日本人の若者ボランティアを募り井戸や用水路の建設を始めた。

若者らは低賃金をもとめず、合宿しながら活動。現地の服装、質素な現地料理、イスラム教を尊重した生活習慣を貫き、地域に溶け込む努力を続けた。「最初の半年は言葉もシャベルの使い方も分からず使い物にならない」。言葉は厳しいが、地元に着し市民らを優しく見守る中村さんの秘めた愛情に賛同する若者は多かった。

こんなエピソードがある。米軍が突然、診療所を数台の装甲車とともに訪れ、薬の提供を申し出た際に拒絶したのだ。米軍と距離を置くためだった。「米国に近いと思われたら、ここでは誰も信用してくれない」。だからこそ、地元住民に信頼され、大切な土地の開拓を許されてきた。

だが、〇八年八月に静岡県出身の伊藤和也さん＝当時（31）＝が武装勢力の凶弾に倒れる。「私を含め情勢に対する認識が甘かった。まさかこんな目に遭うとは考えていなかった」と無念さをにじませた中村さん。以後は若者らの派遣を厳しく制限する一方、本人だけは陣頭指揮を続けてきた。

〇三年に「アジアのノーベル賞」と呼ばれるマグサイサイ賞を受賞。一六年秋には「旭日双光章」を受章した。一八年二月にアフガン政府から勲章を授けられ、今年十月には市民証（名誉市民権）も授与された。

これまでに掘った井戸は千六百本に上る。用水路を引いた大地は黄土色から緑一色に変わった。「裏切られても裏切り返さない誠実こそが、人々の心に触れる」。自著につづった思いは通じなかったのか。中村さんの無念さを思うと心が痛い。（共同通信元カブール支局長・遠藤幹直）

用水路建設に尽力 中村哲さん死亡 アフガン国家勲章

東京新聞2019年12月5日 朝刊

【バンコク＝岩崎健太郎】銃撃された中村哲さん（73）は三十五年前から、パキスタンやアフガニスタンで医療活動を続けていた。アフガンで干ばつによる水不足に苦しむ人々を目の当たりにし、用水路の建設支援に尽力。長年の功績が認められ、昨年、ガニ大統領から国家勲章を受けたほか、今年十月には名誉市民権を授与されていた。

活動のきっかけは、一九八四年からのパキスタン赴任。難民キャンプなどの診療にも足を運び、その後は活動範囲をアフガンにも拡大した。両国で運営した診療所は最大十カ所以上に上る。

アフガンが大干ばつに襲われた二〇〇〇年からは、荒廃して砂漠化した村の復興や、生活改善を目指した。土木や建設分野は素人だったが、井戸掘りや農業用水路の建設に自ら携わるようになった。

2016年11月、アフガニスタン東部ジャララバード郊外で、日本の技術を利用して整備された用水路の前に立つ「ペシャワール会」の医師中村哲さん＝共同



各地の講演などでは、砂漠だった土地で稲作や果実栽培が可能になった経験を紹介。「戦争のことが伝えられることが多いが、食べ物がないと命を落とす人が大勢いる。目の前の一人を救っていくことの積み重ねが、平和につながる」などと語っていた。

相次ぐテロ アフガン 情勢不安定

東京新聞 2019年12月5日 朝刊

【バンコク＝岩崎健太朗】アフガニスタンでは、米国が二〇〇一年の中枢同時テロを受けた「テロとの戦い」の舞台として、当時のタリバン政権に攻撃を開始。米国にとってベトナム戦争を上回る十八年以上にわたり、戦闘状態が続いている。ほかの過激派組織を含めたテロ攻撃や交戦が全土で相次ぎ、安定への道筋は見えていない。

タリバンは政権崩壊後も反政府武装勢力として力を維持し、今なお国土の半分ほどを支配。米国とタリバンの和平協議は九月に合意寸前まで進んだが、タリバンが攻撃を停止しないことに業を煮やしたトランプ米大統領が中止を宣言した。

トランプ氏は先月二十八日、アフガンの米軍基地を電撃訪問し、協議再開の方針を示したが、具体的な停戦交渉には時間を要するとみられている。

さらにアフガンでは九月に大統領選が行われたが、集計の混乱でいまだに新大統領が決まらない状態だ。混乱が長引けば和平の行方に影響する可能性もある。

アフガン銃撃 外国人ねらい武装グループ計画的犯行か

NHK12月5日 12時04分



アフガニスタンで長年、人道支援と復興に携わってきた医師の中村哲さんが銃撃され死亡した事件で、襲撃犯の男らは乗用車に乗って中村さんの車の進行を妨害し、犯行に及んでいたことがわかりました。ガニ大統領は声明で「テロ行為だ」と強く非難し、警察は、武装グループが外国人をねらった計画的な犯行の疑いがあると見て捜査しています。



アフガニスタン東部のナンガルハル州ジャララバードで4日、福岡市のNGO、「ペシャワール会」の現地代表の医師 中村哲さん(73)が車で移動中に、何者かに銃撃されました。

中村さんは、腹部などを撃たれ、病院で手当を受けましたが、その後、死亡しました。中村さんと一緒にいた運転手や警備員5人も撃たれて死亡しました。

現場で襲撃を目撃した人はNHKの取材に対し、襲撃犯の男らは日本製の乗用車に乗って中村さんの車の進行を妨害したうえで、車から降りて銃撃を始めたということです。

また、ロイター通信が目撃者の話として伝えたところでは、銃撃の最中、襲撃犯の1人が頭を上げる中村さんを見て、「日本人がまだ生きている」と叫びながら、再び男らが中村さんを撃ったということです。

こうした状況から警察は、武装グループが外国人をねらった計画

的な犯行の疑いがあると見て、捜査しています。

中村さんの遺体は、現地時間の4日夜、事件の現場となったジャララバードからカブール市内に移されたということで、この後、日本に向けて搬送されるとみられます。

事件が起きたナンガルハル州は、反政府武装勢力タリバンの活動地域の1つですが、今回、タリバンは声明を出し、犯行を否定しています。

一方、この地域では、過激派組織IS＝イスラミックステートの地域組織の活動が活発化し、アフガニスタンやアメリカの軍が先月から大規模な掃討作戦を展開していて、現地の警察などによりますと、治安機関の間では「ISが掃討作戦に反発して、ジャララバードでテロや襲撃を行う可能性がある」という情報が共有されていたということです。

事件を受けてアフガニスタンのガニ大統領は声明を出し、「このような非情な犯行はテロ行為だ」と強く非難しました。

遺体はカブールに安置

福岡市のNGO「ペシャワール会」の古川正敏事務局長によりますと中村さんの遺体は現在、アフガニスタンの首都カブールに安置されていて、外務省が日本への搬送の手続きにあたっているということです。

日本からは中村さんの妻と長女、それにペシャワール会の関係者などあわせて5人がカブールに向かうということです。

菅官房長官「断固として非難」

菅官房長官は午前の記者会見で「中村医師を含む方々が犠牲となったことは痛恨の極みだ。今回の卑劣なテロは許されるものではなく、わが国は断固として非難し、今後とも日本人の安全確保のために全力を尽くしていくとともに、アフガニスタンの平和と発展のために引き続き貢献していきたい」と述べました。

また、日本政府の対応について「警察庁含む関係機関が連携して情報収集につとめているが具体的な対応を答えることは差し控えたい。また、海外緊急展開チームの派遣を含む支援の在り方は検討中だ」と述べました。

公明 山口代表「志を共有し努力を」

公明党の山口代表は、党の中央幹事会で「私も中村さんに会って話を聞いたことがあるが、アフガニスタンの貧しい人々を助けるために支援してきた方で、銃撃で命を奪われたことは許しがたい。アフガニスタンの復興と安定を作り出すため、中村さんの志はこれからも消えることなく、多くの人が共有し、努力していくべきだ」と述べました。

中村哲さん 平和への志砕かれ 「あまりに突然…」妻悲痛

東京新聞 2019年12月5日 朝刊

アフガニスタン復興に懸けた信念は突然の凶弾に打ち砕かれた。「用水路を造り、農地を増やせば、平和が訪れる」。現地では人道支援活動が続ける「ペシャワール会」の医師中村哲さん(73)が四日、武装した男らに襲われ死亡した。「こんな日が来ないことだけを…」との不安は現実。「信じたくない」「無念」。失われた存在の大きさに悲しみが広がった。

「こんなことがないようにと、いつも無事を祈っていました」。中村さんの妻尚子さん(66)は四日、福岡県大牟田市の自宅前で取材に応じ「あまりに突然で悲しく、残念でなりません」と涙

を拭いながら語った。

尚子さんや親族によると、帰国は年に四回ほど。最近では十一月に約二週間、自宅で孫たちと遊ぶなどして過ごした。同二十九日にアフガニスタンに出発する際には、尚さんは普段通り「行ってらっしゃい」と送り出したという。

ペシャワール会から事件の連絡が入った当初は命に別条ないと聞き「まずはほっとした」ものの、四日夕になって事態の急変を知らされた。「どういう地域で活動しているのかは分かっているし、いつも家にいてほしいとは思っていた。ただ本人は活動に懸けているので強く反対するわけにいかず、見守っていました」。言葉を振り絞った。

中村さんのいとこの玉井史太郎（ふみたろう）さん（82）＝北九州市若松区＝は「彼の仕事は『人間らしい仕事』だった。彼を貫いていたのは困っている人に手を差し伸べるという素朴な正義感」としのんだ。中村さんは同区で幼い頃を過ごし、今年八月に区内で開かれた講演会でも平和の大切さを訴えた。

玉井さんの父で芥川賞作家の火野葦平（あしへい）は、中村さんの伯父に当たり、日中戦争時は中国戦線に従軍しながら「麦と兵隊」などを執筆した。玉井さんは「テツは『葦平と一緒に、危険なところで活動しているのが同じ』と笑っていた。自分のいとこの活躍は誇り。テツがアフガンでやってきたことは、これからも生きていくと思う」と力を込めた。（西日本新聞・吉田賢治、米村勇飛）

◆ペシャワール会 遺志を継ぐ覚悟

ペシャワール会の福元満治（みつじ）広報担当理事（71）らは四日、福岡市内の事務局で記者会見し「無念だ」と涙をこらえながら話した。事務局には一時、命に別条はないとの情報ももたらされ「とにかく生きて」と願ったが、かなわなかった。

治安が悪く、安全には細心の注意を払っていたという。銃器で武装した警備要員を常に数人配置し、車で移動する際は前後を警護車両で固め、経路も毎回変更していた。襲撃者については見当もつかないとした上で「あり得ないことだ」と不条理な暴力を批判した。

現地の長老からは「この地に招いてくれた神に感謝する」と最大限の賛辞を贈られていた中村さん。地元での評価も高かった。「あと二十年はやる」と意気込んでいたという。

福元氏は、これまで取り組んだ農業用水の整備などは治安の安定につながると指摘する。襲撃を受けても「事業が中止になることはない」と力を込めた。ただ、事業の拡大は難しくなる見込みで、活動が岐路に立たされる可能性があるとの認識を示した。

◆アフガンに寄り添った中村先生 現地で活動 元職員の本紙記者

東京新聞 2019年12月5日 朝刊

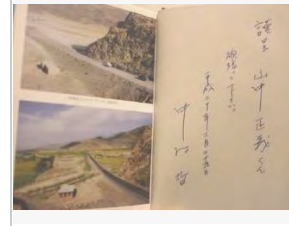
2008年から約半年間、ペシャワール会職員としてアフガニスタン東部ジャララバードの事務所に赴任し、中村さんと一緒に活動した経験のある本紙の山中正義記者（35）＝現熱海通信局＝が当時を振り返った。

「中村先生」を初めて知ったのは大学生の頃。国際協力に漠然と興味があり、東京都内の大学での講演を聞きに行った。パキスタンやアフガンの現地語を独学で習得し、現地の文化を尊重して

支援活動に取り組む姿勢に感銘を受け、一緒に働きたいと思った。

大学卒業後、会の拠点病院があったパキスタン・ペシャワールへ留学。病院を訪れ、日本人スタッフを介して中村先生に働きたい旨を伝えてもらった。現地は当時、自爆攻撃が多発するなど治安が悪化。会は日本人職員の採用を停止していたが、中村先生から「今すぐ来られるなら来てください。来られないなら今後は採用しません」と伝言が届いた。迷いはなかった。

ジャララバードのペシャワール会事務所に赴任した際、中村哲さんから贈られた本



赴任後は用水路建設に必要な資材の調達など主に事務を担当した。中村先生は現地で「ドクター・サーハブ（お医者さん）」と親まれ、長年培ってきた信頼が活動の安全を支えていると、身に染みて感じた。

中村先生からは赴任したばかりのころ、「現地スタッフの意見をきちんと聞くように」と助言を受けた。「支援する側」として自分の指標を押しつけるのではなく、現地の人たちと対等に、ともに考えて行動する姿勢を教わった。

中村先生の身に起きたことはまだ信じられないし、そんな日が来るとも思っていなかった。最後に会ったのは、二〇一五年九月に中村先生が一時帰国した際、現地の強い日差しの下で働いて日焼けした顔が、以前と変わらず輝いていたのを覚えている。

「治安を良くするのは武力ではない」という先生の志を、絶やしてはいけない。

タリバン、関与否定 中村医師銃撃—アフガン

時事通信 2019年12月04日 16時41分

アフガニスタン東部で、NGO「ペシャワール会」（福岡市）の現地代表、中村哲医師が銃撃された事件で、アフガンの反政府勢力タリバンは4日、ツイッターで関与を否定した。「この組織はわが国の建設に携わっており、タリバンと良好な関係を築いている。われわれの戦闘員の標的ではない」と述べた。

接近する車、突然の銃撃 中村医師はなぜ狙われたのか

朝日新聞デジタルバンコク＝乗京真知、貝瀬秋彦 2019年12月4日 23時03分



アフガニスタン東部のジャララバードで4日、中村哲さんが乗っていた車の窓に残る銃弾の跡＝ロイター



アフガニスタンで30年以上にわたって人道支援を続けてきたNGO「ペシャワール会」の現地代表、中村哲医師（73）が4日朝、道半ばで命を奪われた。現場では何が起きたのか。アフガニスタンの人々から深く感謝されている中村さんが、なぜ狙われたのか。

朝日新聞の電話取材に応じた現地の住民によると、銃撃が起きたのは4日午前8時ごろだった。中村さんが乗る四輪駆動車を待ち伏せするように、不審な車が通りに停車。車から降りてきた男が中村さんの四駆が差し掛かるタイミングで、タイヤに向けて発砲した。その後、男は中村さんに向けて銃を撃ち、車に戻って逃走した。銃撃を受けた四駆のドアからは大量の血が流れ出していたという。

「ペシャワール会」によると、中村さんは当時、運転手やスタッフとともに車で灌漑（かんがい）事業を進める場所に向かっていた。銃撃により、運転手やスタッフら5人も犠牲になったという。

アフガニスタンの武装勢力は、外国人や要人を襲撃する場合、標的にする人物の行動をつかみやすい出勤や帰宅時を狙うことが多い。同会によると、中村さんは通常、午前7～8時に宿舎を出発することにしていたといい、襲撃犯が尾行によって中村さんの行動パターンを事前に把握していた可能性がある。

事件を受けて会見した同会は「セキュリティには気を配っていた。一番危ないのは移動中だと認識しており、同じ道を通らぬようにして、警備員を付けていた」と説明した。

アフガニスタンは政情悪化が著…
残り：290文字／全文：901文字

中村医師「男だったらやらんといかん」 アフガン救った昆虫少年

産経新聞 2019. 12. 5 05:30

「最初はチョウチョがみたたくて行ったんだよ」

アフガニスタンで4日朝、武装した男らに銃撃され死亡した非政府組織（NGO）「ペシャワール会」の中村哲医師（73）は常々、周囲にこう語っていた。

■現地の苦境に触れ「不条理感じた」

子供の頃から野山を駆けめぐってはチョウチョやバッタなどを収集する「昆虫少年」だった。そんな縁から、アフガニスタンに向かう登山チームの担当医として声がかかり、現地に向かった。

山登りを楽しめる。そんな思いは道中、アフガニスタン人の苦境に触れ、吹き飛んだ。病気で苦しむ農民に、重要な薬は渡せなかった。

「その場しのぎにしかならないちょっとした薬を渡すしかなかった。世の中の不条理を感じた」。

中村さんは当時をこう述懐していた。

「男だったらやらんといかんだらう。義理と人情みたいな人だ」
ペシャワール会の理事、福元満治さん（71）は中村さんの人

柄をこう語る。

■大干魃で患者消え…医師から技師へ

登山隊への参加からしばらくして、中村さんは再びアフガニスタンに渡った。蔓延（まんえん）していたハンセン病の治療にあたるためだった。患者の多くは貧しい農民だった。

山岳部に数多くの診療所を作ったが、2000年ごろ、大干魃をきっかけに患者の姿が消えた。離農を余儀なくされ、難民になっていた。

こんな状況で、中村さんは医師から技師へと変わっていった。

まずは1600本の井戸を掘り、飲料水を確保した。しかし、農業用水には足りない。次に、灌漑（かんがい）事業にも乗り出した。

PR

財源に乏しく、技術水準も決して高くはない現地で、近代的工法を採用しても画餅に終わる。江戸時代の治水技術などを研究し、図面を引いた。

■「高いというより、深く秘めた志」

「ちょっとした設計ミスで、村の人がものすごい被害を受ける可能性がある。計り知れないプレッシャーがあっただらう。医師なので、土木はアマチュアだ。しかし、やっていた仕事はプロフェッショナルそのものだった」と福元さん。一連の灌漑用水の設計は平成29年度には、土木学会から技術賞を受けた。

「高い志を持っていたというよりも、深く秘めた志を持っていた人だったのだらう」

福元さんは目を潤ませながら、こう語った。（中村雅和）

医療から帰農促す水路建設…中村医師、アフガンに尽くした半生

産経新聞 2019. 12. 4 19:25

アフガニスタンで4日朝に、武装した男らに銃撃され死亡した非政府組織（NGO）「ペシャワール会」の中村哲医師（73）は現地で長く貧困層への医療活動に従事してきた。灌漑（かんがい）事業などにも幅広く携わり「最大の英雄」として、アフガン政府から勲章も授与されていた。「今後も、やり続けるだけだ」。中村さんは志半ばで銃弾に倒れたが会のメンバーらは、その遺志を継ぐ考えだという。

■「穏やかな目、現地では一変」

「正直な所、信じられない。無念というか、やはり、一連の事業は『中村哲』という人物でなければできなかった」。ペシャワール会の理事、福元満治さん（71）は、絞り出すように語った。

一報は昼過ぎに現地スタッフからもたらされたという。福元さんは「胃がひっくり返る思いだった」と振り返る。ただ、当初は「命に別条はない」とする情報が流れたが、夕方には「死亡」が確認された。

福元さんは「日本では穏やかな目をしているが、現地では一変する。厳しいながらも優しさのある指揮官だった」と振り返る。

■84年からアフガン国境で活動

九州大学の医学部を卒業した中村さんは、1984年にアフガンの国境に接するパキスタンでハンセン病患者らへの医療活動を始めた。内戦が続くアフガンから流入する貧しい難民らの診療も続け、91年にはアフガンに診療所も開設した。

2000年に大干魃（かんぼつ）が発生すると、感染症が蔓延（まんえん）するなどし乳幼児らの犠牲者が続出。その惨状を目の当たりにした中村さんは井戸を掘る事業にも携わるようになったという。

中村医師の支援者「信じたくない」 熱心な姿勢、協力の輪を広げ 産経新聞 2019.12.4 18:54

福岡県出身の中村哲医師（73）は、江戸時代に完成した同県朝倉市を流れる筑後川の「山田堰」を参考に、アフガニスタンでのかんがい事業を進めていた。十数年前から熱心に足を運ぶ姿に感銘を受け、助言をしてきた山田堰土地改良区の徳永哲也元理事長（72）は死去の知らせに「うそだ、信じたくない」と声をうわずらせた。

徳永さんは中村氏と同じ学年で、「頼り頼られる存在」だった。今年4月にはアフガニスタンに招待され、完成したかんがい施設を見学。11月に中村氏が帰国した際も福岡市内で会い「これからもサポートしていきたい」と伝えただけだった。

土地改良区の職員田中真子さん（56）は「偉い人なのに気さくでいつもにこにこしていた。小柄な人でどこにそんなパワーがあるのかと不思議なくらいだった」と振り返った。

「生きておれ、病は後で治す」 中村医師は井戸を掘った 朝日新聞デジタル 渋井玄人、武石英史郎 佐々木亮 バンコク＝乗 京真知 2019年12月5日 05時00分



アフガニスタン東部のジャララバードで4日、中村哲さんらへの銃撃で犠牲となった人のひつぎを運ぶ人たち＝AFP時事



30年以上、アフガニスタンの復興を支援してきたNGO「ペシャワール会」現地代表の中村哲医師（73）が、道半ばで命を奪われた。医療の枠にとどまらず、農業にも力を尽くし、現地の人たちに感謝されていた中村さん。事件は、悪化する治安に警戒しながら活動する中で起きた。

中村さんを中心とする「ペシャワール会」は1983年に設立。中村さんは86年にアフガニスタン人を対象にした活動を始め、現地に溶け込んで医療や農業などの支援に取り組み、高く評価されてきた。

2001年9月の米同時多発テロ後、アフガニスタンでは米軍と武装勢力との戦闘などで治安が悪化。08年8月には同会の伊藤和也さん（当時31）が武装集団に拉致され、殺された。同会は10カ所以上あった診療所の大半を閉め、日本人メンバーを引

き揚げた。

「合言葉は『100の診療所より1本の用水路』——。記事の後半で、中村哲医師が残した言葉を紹介します。

それでも中村さんは現地に残り、03年に始めた東部クナル川下流域での用水路建設を継続。新たな用水路の建設にも乗り出し、取水堰（せき）や分水路、護岸樹林帯もつくるなど、活動してきた。

勲章や名誉市民権をガニ大統領から贈られた中村さんは「私たちの試みが多くの人々に希望を与え、少しでも悲劇を緩和し、より大きな規模で国土の回復が行われることを願う」との談話を発表していた。

死去を受け、アフガニスタンの大統領報道官は「（同国の）偉大な友人、中村医師は、水資源の管理や農法の改善でアフガニスタン人の暮らしを変えるために人生を捧げた。中村医師への凶悪で卑劣な攻撃を強く非難する」とツイートし、功績を評価した。

国連アフガニスタン支援団もツイートで、中村さんを「最も弱いアフガン人を助けるために人生の大半を捧げた」と指摘。「尊敬を集めた日本人援助関係者が殺害されたことに嫌悪を表明する」とした。

パキスタンでNGO代表を務める督永忠子さん（75）は、80年代から交流してきたという。「現地に溶け込む努力が一般的なNGOの水準から飛び抜けていた。モスク（イスラム礼拝所）を建ててイスラム教への理解を示し、スタッフの給与も現地の水準を調べ、決してばらまきはしなかった。だから、ほかの団体が撤退する中でも活動を続けられたのだろう」と話す。

安倍晋三首相は首相官邸で記者団に「医師として医療分野に、また灌漑（かんがい）事業などにおいて大変な貢献をしてこられた。危険で厳しい地域にあって、本当に命がけでさまざまな業績をあげられ、アフガンの人々からも大変な感謝を受けていた。このような形で亡くなったことは本当にショックで、心からご冥福をお祈りしたい」と話した。（渋井玄人、武石英史郎）

周囲に話していた「あと20年は活動を続ける」

一報を聞いて福岡市のペシャワール会事務局に駆けつけると、4日付で刷られた会報がテーブルに並んでいた。中村哲さんが決意をつづっていた。「この仕事で新たな世界に通ずることを祈り、真っ白に砕け散るクナル河の、はつらつたる清流を胸に、来たる年も力を尽くしたいと思います」

初めて取材したのは2001年の米同時多発テロ後、アフガン情勢が緊迫し、日本へ一時帰国した際だった。以来、繰り返しインタビューをさせてもらった。活動のきっかけに話が及ぶと、いつもはにかみながらこう言った。「最初から貧しい人を助けようと思っていたわけではありません」

少年時代から昆虫が好き。「珍…
残り：2449文字／全文：3823文字

中村哲医師、左胸の銃弾が致命傷 タリバーンは犯行否定 朝日新聞デジタル 乗京真知＝バンコク、佐々木亮 2019年12月 4日 22時28分

アフガニスタン東部ジャララバードで4日朝、現地の人道支援に取り組んできたNGO「ペシャワール会」（事務局・福岡市）の現地代表で、医師の中村哲（てつ）さん（73）の乗った車が

何者かに銃撃された。州政府などによると、中村さんや運転手ら計6人が死亡した。外国人を標的にする武装勢力に攻撃された可能性がある。同国最大の武装勢力タリバーンは犯行を否定する声明を出しており、治安当局が襲撃犯の特定を急いでいる。



「ペシャワール会」の中村哲医師



ペシャワール会によると、中村さんは同国東部で進めている灌漑（かんがい）工事の現場に向かう途中だった。2008年に同会の日本人スタッフ、伊藤和也さん（当時31）が殺害される事件があり、警備員を付けて活動していたが、待ち伏せされた可能性がある。

中村さんたちが運ばれた現地の病院によると、中村さんは胸などに複数の銃撃を受け、緊急手術を受けた。当初は意識があったが、術後に医療施設の整った首都郊外の病院に移そうとして救急車で飛行場に運ばれた際、容体が悪化したという。医師は朝日新聞に「心臓に近い左胸に2発の銃弾が当たったのが致命傷となった」と語った。

ジャララバードがあるナンガルハル州は、タリバーンや過激派組織「イスラム国」（IS）の支部組織、アフガン政府軍が三つどもえで戦う激戦地の一つ。タリバーンやISは、国外からの支援が届かぬようにして政府に打撃を加える狙いから、国際NGOや外国企業も標的にしてきた。

国連などによると、同国では紛争が始まった01年以降、戦闘やテロなどで民間人4万人以上が死亡。日本外務省は全土に退避勧告を出している。一方で、国際協力機構（JICA）はペシャワール会の現地NGOと共同で灌漑事業を実施。中村さんは30年以上にわたる活動を認められ、同国のガニ大統領から昨年2月に勲章、今年10月に自由に入国できる名誉市民権を授与されたばかりだった。03年にはアジアのノーベル賞といわれるマグサイサイ賞を受賞している。（乗京真知＝バンコク、佐々木亮）



<ペシャワール会>

パキスタンで医療活動に取り組む福岡県出身の中村哲医師を支える目的で、国内の賛同者たちが1983年に設立したNGO。86年からはアフガニスタンでも人道支援活動を始めた。同国での2000年の大干ばつを受け、「病気の背景にあるのは食糧問題。農地の回復が急務」と03年から灌漑（かんがい）用水路の建設にも着手。10年に総延長25キロを超える用水路を完成させた。これまでに約1600本以上の井戸を掘り、水源確保や緑地化に貢献している。中村医師は19年10月、30年以上の活

動を認められ、同国の名誉市民権を授与された。

「アフガンの偉大な友人」 現地は中村医師の貢献に感謝、事件非難

産経新聞 2019. 12. 5 01:12

「アフガニスタンの偉大な友人」ー。福岡市の非政府組織（NGO）「ペシャワール会」現地代表の医師、中村哲医師が銃撃され死亡したことを受け、アフガンの首都カブールでは市民から悲しむ声が上がった。ツイッターには中村さんの貢献に感謝するメッセージがあふれ、事件を非難する投稿も目立った。

カブールで中村医師を知る人は多く、30代の男性、ムシュタク・ラヒムさんは「中村さんは不毛な土地を耕作可能な土地に生まれ変わらせた。アフガンのために尽力してくれたのに殺害され、私の良心は泣いている」と悲しんだ。

事件を伝えるニュースを転載する投稿も多く、自分のプロフィール写真を中村さんの写真にしたり、日本語で投稿したりする人も。「今日はアフガニスタンの暗黒の日」「なんと悲劇的な日なんだ」と記し、事件を強く批判していた。（共同）

「あと20年やると言ったのに」 福岡市のペシャワール会、悲しみ広がるー医師銃撃

時事通信 2019年12月04日 20時39分



中村哲医師が襲撃された事件で記者会見するペシャワール会の福元満治・広報担当理事（左）ら＝4日午後、福岡市中央区

「武器ではなく用水路で信頼されてきた人。あと20年やると言っていたのに」。中村哲医師（73）死亡の対応に追われた福岡市のペシャワール会。記者会見した福元満治理事（71）は目を潤ませ、無念な胸の内を語った。

福元理事には4日午後0時半ごろ、「銃撃されたが命に別条なし」と情報が入った。しかし、中村さんとは直接話ができていない状況で、「不安だった」という。同4時すぎ、現地の医師から死亡の連絡が来ると「信じられない。無念だ」と言葉を失った。

同会ではこの日、会報を送る作業のため、中村さんを慕うボランティア二十数人が集まっていたが、死亡の報に一齐に泣き崩れた。中村さんの妻にも伝えると、「そうですか」と冷静に応じ、「今後のことが分かればそれも知らせてほしい」と話したという。

中村さんは当初、アフガニスタンで診療活動をしていたが、2000年以降は用水路整備などの農業支援にも取り組み始めた。支援目標の口癖は「三度の飯が食えて、家族と一緒に暮らせること」。福元理事は30年来、そんな中村さんの姿を間近で見詰めてきた。

「医師なのに自ら重機を操り、プロ同様の用水路を建設した。彼でなければこんなことできない」とたたえた。今後の活動については「基本的に事業を継続することに変わりはない」と明言。「アフガンの人たちのために続けていくことが、中村の遺志だと思っている」と決意をにじませた。

中村医師は右胸に被弾 ペシワール会が会見

朝日新聞デジタル佐々木亮、山野健太郎 2019年12月4日15時44分



会見するペシワール会の福元満治・広報担当理事（左）ら＝2019年12月4日午後2時48分、福岡市中央区、吉本美奈子撮影

アフガニスタンで人道支援に取り組んできたNGO「ペシワール会」（事務局・福岡市）の現地代表で、医師の中村哲さん（73）の乗った車が現地で銃撃された事件を受けて、ペシワール会は4日午後、福岡市中央区の事務所で記者会見を開いた。

会の広報担当理事・福元満治さんによると、現地からの情報として、中村さんたちはアフガニスタン東部・ジャララバードの宿舎から、クナール川沿いにある灌漑（かんがい）工事の作業現場に向かう途中に襲われた。中村さんは右胸に1発銃弾を受けたという。意識はあり、「命に別条はない」と連絡を受けているが、現地病院の集中治療室に入っているという。

一方、車を運転していたアフガニスタン人の男性（33）は死亡したという。（佐々木亮、山野健太郎）

中村哲さん同僚「信じられない、無念」 衝撃にも「事業はやめない」

毎日新聞 2019年12月4日 20時15分(最終更新 12月4日 22時45分)



ペシワール会現地代表の中村哲さんが銃撃で死亡したのを受け、沈痛な面持ちで記者会見する福元満治・広報担当理事（左）と古川正敏・事務局長＝福岡市中央区で2019年12月4日午後5時32分、矢頭智剛撮影

戦乱と干ばつで荒れたアフガニスタンの地に水を引き、実りの畑に変えてきた日本人医師が、銃弾に倒れた。福岡市のNGO「ペシワール会」現地代表の中村哲さん（73）。人道支援に力を注ぎ、武力に頼って争う世界に異議を唱え続けた中村さんの突然の悲報に、関係者や家族は言葉を失った。

「正直なところ信じられない。無念だ」。4日午後5時半過ぎ、福岡市中央区のペシワール会事務局で、同会理事の福元満治さん（71）は、厳しい表情で言葉を絞り出した。その約1時間前、中村さんの死亡情報が飛び込んでいた。

福元さんは、中村さんと約30年前から苦楽をともにしてきた。戦乱や干ばつの深刻化で苦しむアフガニスタ...

残り 797 文字 (全文 1089 文字)

声震わせ「信じられない、無念」、ペシワール会会見

日経新聞 2019/12/4 18:49



中村哲医師が銃撃され死亡したことについて記者

会見するペシワール会の福元満治広報担当理事（左）ら（4日午後、福岡市中央区）

「とにかく信じられない、無念だ」。中村哲医師の死亡の知らせを受け、ペシワール会は4日夕、福岡市内で記者会見し、広報担当理事の福元満治さん（71）は悔しさをにじませた。

中村さんはアフガニスタンで長年、用水路建設などの支援活動に従事。「完全なセキュリティーとはいえないものの、毎回違う経路で移動するなどして活動してきた。非常にショックを受けている」と顔をゆがませた。

福元さんによると、同会に銃撃の知らせが入ったのは同日午後1時ごろ。当初は「右胸に1発被弾したが、命に別条はない」との連絡だったが、約3時間後の午後4時すぎに訃報がもたらされた。

福元さんは「あの事業は中村哲という人物でなければできなかった。普通の医者ではなかった」と中村さんを何度もたたえ、「現地で働く職員らも想像できないくらいのショックと悲しみを受けていると思う」と声を震わせた。

今後の活動については「従来の形では難しいが、事業を継続するのが中村医師の遺志だ」と強調。アフガンの治安の安定には農業の復興と用水路が必要との認識を示し「今後のことは現地のスタッフと相談して決めるが、中止になることはない」と力を込めた。福元さんは死亡の知らせを受けて、中村さんの妻に電話で報告。

『『そうですか。今後のことがわかったら連絡がほしい』と冷静に受け止めていた』と振り返った。

同会では2008年にもアフガンで農業支援を行っていた伊藤和也さん（当時31）が武装グループに拉致され、遺体で見つかった。

「活動続けることが中村さんの遺志」 ペシワール会が会見

NHK2019年12月4日 18時58分



アフガニスタン東部で銃撃され、死亡した中村哲さんが現地代表を務めていた福岡市のNGO「ペシワール会」が4日夕方、記者会見を開き、福元満治広報担当理事は「とにかく信じられない」とことばを詰まらせた。そのうえで、「今後も活動を続けることが中村さんの遺志でもある」として、現地での活動を続ける考えを示しました。

午後5時半から福岡市内で開かれた記者会見で福元広報担当理事は「当初は中村さんは意識があり、病院で手術をやっていると聞いていた。ただ、本人と連絡が取れないのが不安だった。その後、現地から亡くなったという連絡を受け、とにかく信じられない」と述べことばを詰まらせた。

銃撃を受けた当時の状況などについては「具体的な様子は分からず、私どもは正確には把握していない」と述べました。

また中村さんのこれまでの活動について、「診療だけでなく、井戸を掘ったり、用水路の設計図を書いて自分で重機を運転してつくりたりしてきた。農業こそがいちばんのおおもとであると考えて、みずから率先して活動してきた」と振り返りました。

さらに73歳の中村さんが「あと20年やる。そのための態勢をとる」と話していたことも披露しました。

今後の会の活動については「従来のような形で続けていくのは難しいかもしれないが、基本的には続けていく。このようなことで中止になることはない。それが中村さんの遺志でもある」と述べ、現地での活動を続ける考えを示しました。

福元広報担当理事によりますと、中村さんの遺体は現在、アフガニスタンのジャララバードに安置されているということで、今後、帰国に向けて、外務省や現地のスタッフなどと調整を進めるということでした。

中村医師死亡 ペシャワール会 会見詳細

NHK2019年12月4日 18時18分



アフガニスタン東部で銃撃され、死亡した中村哲さんが現地代表を務めていた、福岡市のNGO「ペシャワール会」は4日午後5時半から福元満治広報担当理事らが記者会見を開きました。

「とにかく信じられない」



この中で福元広報担当理事は「現地からの連絡で中村氏が亡くなったという報告を受けました。時間などははっきりしませんが、私が報告を受けたのが午後4時すぎぐらいなので午後であろうと思われます。病院での手術が終わったら移送すると聞いていたが、そのあとの連絡で亡くなったということでした。とにかく信じられない」と話し、ことばを詰まらせました。

そして「アフガニスタンでは2000年から大干ばつが始まった。中村医師は農業こそがいちばんのおおもとであると考え、ドクターだがみずから率先して重機を運転して用水路をつくってきた。現地でも兵にならざるを得なかった人たちが農業に携わることで治安を回復してきた。中村医師は73歳になるが『あと20年やる、そのための態勢をとる』と言っていた」と述べました。

「事業は中止しない それが中村医師の遺志」

また「現地のスタッフは非常にショックを受けていると思う。その人たちも、中村医師がいて成り立っていたので、私たちが想像できないぐらいのショックと悲しみを受けているのではないかと述べました。

今後の活動については「従来のような形で続けていくのは難しいかもしれないが、基本的には続けていく。あとは現地のスタッフと相談しながら今後のことは決めていきたい。このようなことで事業が中止になることはない。それが中村医師の遺志でもある」と述べました。

「現地の具体的な様子はわからない」

さらに「現地の具体的な様子は分からない。私どもは正確には把握していない。外務省と連絡を取って今後のことについては考えていきたい」と述べました。

「信じられない 無念」

そして「信じられない。無念です。あの事業は中村という人物で

なければできなかつたと思います。普通の医者ではない。診療だけではなくて、井戸を掘ったり、用水路を設計図まで書いて現場で自分で重機を運転したりして、そういう医者というのはなかなかいないのではないかと述べました。

「いつ帰国するかはわからない」

「中村さんの遺体がアフガニスタンのジャララバードにあることは間違いない」と述べたうえで、「今後、いつ帰国するかはわからない。外務省と連絡を取り合いたい」と述べ、今後、外務省や現地のスタッフなどと調整を進める考えを示しました。

JNN2019年12月5日0時24分

中村医師の死に悲しみ広がる

長年、アフガニスタンの復興支援を続けてきた医師の中村哲さんが4日、現地で銃撃されて死亡しました。中村さんの地元、福岡でも、悲しみの声が広がっています。

「(アフガニスタンの現地スタッフは) 私たちが想像できなぐらいショックと悲しみを受けているのではないかと」(NGO「ペシャワール会」福元満治 広報担当理事)

中村哲さんが現地代表を務める「ペシャワール会」は4日午後、福岡市で会見を開き、「現地の人たちからも尊敬されていた」と語りました。アフガニスタンで銃撃されて死亡した中村さんは、長年、用水路建設などの支援活動に従事し、去年2月にはアフガニスタン政府が国家勲章を授与していました。

中村さんの親族も突然の訃報に悔しさをにじませました。

「なぜ彼が命を奪われたいといけないのか、腹が立ってしょうがない」(中村さんのいとこ 玉井史太郎さん)

今後の活動についてペシャワール会は、「継続していくことが中村医師の遺志だと思う」と述べました。

中村医師の元同僚 11年前アフガンで殺害された男性の遺族は

NHK2019年12月5日 12時34分



アフガニスタンで長年、人道支援と復興に携わってきた医師の中村哲さんが銃撃され死亡した事件を受けて、かつて中村さんとともに活動し、11年前に殺害された静岡県掛川市出身の伊藤和也さん(当時31)の両親が、5日朝取材に応じ、父親の正之さんは「悲しみと怒り、無念さが混在しています」と胸の内を語りました。



中村さんと同じ「ペシャワール会」で活動していた掛川市出身の伊藤和也さんは、11年前、復興支援活動をしていたアフガニスタンで武装グループに誘拐され、殺害されました。

今回の事件を受け、伊藤さんの父親の正之さんと母親の順子さんが市内の自宅で取材に応じました。

正之さんは「中村先生は和也が指導を受けるなど、とてもお世話

になった恩人で、ショックで言葉になりません。悲しみや怒り、無念さが混在し、昨夜は眠れませんでした」と話していました。順子さんは「和也がまた殺されたように感じられ、とても悔しいです。2人がアフガニスタンで何をしたのか、なぜこのような別れ方をしなければならないのか、怒りで胸がいっぱいです」と涙をにじませていました。

自宅には中村さんと伊藤さんが並んだ写真が大切に残されています。両親は中村さんが帰国した際、何度か面会する機会があったとし、最後に会ったのは2年前で、静岡県内で開かれた中村さんの講演会のあと、夕食をともにしたということです。

正之さんは「中村さんの『誰も行かないところに行って、誰もしないことをやる』という言葉が強く印象に残っています。2人がしてきたことが無駄にならないよう、現地の子どもたちがしっかり食事をとり、教育を受けられる環境になることを願っています」と話していました。

銃撃され死亡した中村医師 「実績重ねることこそ近道」

朝日新聞デジタル 2019年12月4日 18時19分



アフガニスタンでの工事で指揮を執る中村哲さん（右）（2012年12月3日、ペシャワール会提供）



アフガニスタンで銃撃されたNGO「ペシャワール会」の現地代表、中村哲医師は2016年9月、朝日新聞の取材に対し、アフガニスタンの治安が不安定な地域での活動について「実績を積み重ねることこそが安全を確保する近道」と語っていた。

中村さんは福岡県生まれ。九州大学医学部を卒業。1984年にパキスタンで医療支援を始め、アフガンへと拠点を移した。

2000年にアフガンが大干ばつに襲われ、農地が砂漠化して消え、村の人々が丸ごと難民になると、同会は水利事業にも乗り出した。国連機関は当時、アフガンで1200万人が被災し、100万人が餓死線上にいると報告。中村さんらは、医療より水の確保を優先して約1600カ所の井戸を掘った。

01年9月11日に米国同時多発テロが起き、10月に米軍がアフガンに侵攻した。駐留米軍と反政府勢力との衝突が相次ぎ、治安が悪化。08年8月には、同会の伊藤和也さん（当時31）が武装グループに殺害された。伊藤さんの殺害は、中村さんが襲撃されたジャララバードから約40キロのダラエヌール渓谷近くで、武装勢力に運転手とともに拉致された後の出来事だった。

同会は、10カ所以上あった診…

残り：190文字／全文：674文字

アフガニスタン 医師の中村哲さん銃撃 複数の男らの犯行か

NHK12月5日 5時13分



アフガニスタンで長年、農業用水路の建設など復興に携わってきた医師の中村哲さんが、4日、何者かに銃撃され死亡したについて、現地では追悼の声が相次いでいます。これまでのところ犯行声明は出ていませんが、銃撃は、複数の男らによる犯行の疑いが強いことが地元の警察への取材で分かりました。



アフガニスタン東部のナンガルハル州ジャララバードで4日、福岡市のNGO、「ペシャワール会」の現地代表の医師、中村哲さん（73）が車で移動中に、何者かに銃撃されました。中村さんは、病院で手当てを受けていましたが、その後、死亡が確認されました。

地元の警察などによりますと、この銃撃で、中村さんや、一緒にいた運転手や警備員など合わせて6人が死亡したということです。

中村さんは長年、農業用水路の建設など復興に携わりながら、地元の人たちとも積極的に交流を続けてきたことから、現地では追悼の声が相次いでいます。

現地時間の4日夜、ジャララバードでは追悼集會が開かれ、多くの人がろうそくに火をともし中村さんの死を悼むとともに、功績をたたえました。

農業をしている40代の男性は、「中村さんは、私たちの農地を洪水から守るために数え切れないほどの支援を続けてくれた。彼が亡くなったことを聞き、悲しい思いでいっぱいです」と話していました。

一方、今回の銃撃について、これまでのところ犯行声明は出ていませんが、その後の調べで、銃撃は3人から4人の複数の男らによる犯行の疑いが強いことが地元の警察への取材で分かりました。男らは、1台の乗用車に乗って中村さんたちを待ち伏せし、銃撃したあと、再び同じ車に乗って逃走したということです。警察は、中村さんをねらった計画的な犯行の疑いもあるとみて、詳しく調べています。

治療にあたった病院の担当者

中村さんの治療にあたったナンガルハル州の病院の広報担当者がNHKの取材に応じ、「中村さんが乗った車は午前8時ごろ、武装した何者かに襲われた。5人の遺体とけがをした中村さんが、私たちの病院に運ばれてきた」と当時の様子を説明しました。また、中村さんの容体については、「腹部に2発の銃弾が撃ち込まれていて、救急処置を行ったが、さらなる治療のために首都カブールに移そうと、地元の空港に向かう途中、けがが原因で亡くなった」と述べました。

中村さんを救うため、ナンガルハル州の知事は、中村さんを至急、首都カブール近郊にあるアメリカ軍のバグラム空軍基地に搬送するよう指示していたということです。

10年来の親交の知人「今後、どう中村先生の遺志をつなぐか」

中村哲さんと10年来の親交がある福岡県朝倉市の徳永哲也さん(72)が4日夜、NHKの取材に応じ、「あれだけ命をかけてアフガニスタンの復興にかけている人をなぜ殺すのか、全く理解できません。悔しくてたまりません。こんなことは絶対にあってはならない」と話しました。

徳永さんは、中村さんがアフガニスタンの農地再生事業のモデルとした、江戸時代のかんがい設備、朝倉市の山田堰を管理する土地改良区の元理事長で、ことし4月、中村さんと一緒におよそ10日間、アフガニスタンに滞在し現地を視察したということです。当時の様子について、徳永さんは「現地の農家の人たちは『中村先生は神様だ』と慕っていました。兵士など5人が24時間、中村先生を警護していたので、そういう環境の中で事件が起きるとは私には理解できません」と話していました。

中村さんの人柄については、「世間が広く、知識も深く、すごい人だなと感じていました。われわれとつきあうときも、偉ぶるわけでもなく、淡々とお話をしてくださいました。いろいろな人に対しても、親切、丁寧に説明をして変わらないで接してくださいました」と話していました。

徳永さんは先月22日にも中村さんと福岡市で会い、今後の取り組みについて話を聞いたばかりだったということで、「われわれが、今後、どう中村先生の遺志をつなぐのか考えていかないとはいけません」と話していました。

母校の九大の学長「理不尽さに憤り」

中村哲さんは、昭和48年に九州大学医学部を卒業し、平成26年から九州大学高等研究院の特別主幹教授として、年に1回のペースで大学で講演会などを行い、ことしも8月5日に講演していました。

九州大学の久保千春学長は「成し遂げた事業の壮大さに強い感銘を受けるとともに、これまでの経験を通して感じた思いを、率直に丁寧に語られる姿に温かく誠実な人柄を感じてまいりました。現地の復興のために尽力してこられた先生がこのような形で命を落とされることは痛恨の極みであり、その理不尽さに憤りを禁じえません。九州大学教職員・学生を代表し心からご冥福をお祈りいたします」とするコメントを出しました。

国連特別代表「功績は大きく、日本人として誇り」

国連アフガニスタン支援団のトップを務める山本忠通事務総長特別代表は、NHKの電話インタビューに対し、「まさか彼のような人が攻撃を受けるなんて思ってもおらず、驚くとともに腹が立った。亡くなられたのは、大変な損失だ」と述べ、中村さんの死を悼みました。

また、アフガニスタンの復興にあたる中村さんの姿勢について、「どうすればアフガニスタンの国民がよりよい人間らしい生活ができるかを考え、『困難な人々を助きたい』という純粋な気持ちが伝わる仕事をしてきた。アフガニスタンの人々たちは中村さんを非常に尊敬していて、親しんでいた。功績は大きく、日本人として誇りに思う」と振り返りました。

そのうえで山本代表は、「中村さんは非常に謙虚であるとともに信念の強い人だった。中村さんが残した具体的な方法や、現地の人々を巻き込んで、一緒になって開発を進めるという考えは根づいていると思うので、それが受け継がれ、さらに広がっていくことを期待したい」と話していました。

10月に現地で活動の様子を取材

NHKはことし10月、アフガニスタンに建設された農業用水路を視察する中村哲さんの様子を現地で取材しました。

この時、視察した用水路は、中村さんが活動の拠点としている東部ナンガルハル州にことし2月、新たに完成しました。中村さんは、現地のNGOと連携しながら、用水路などの建設を進めたほか、地元の人たちとも積極的に交流していました。

ただ、中村さんは、現地の治安状況を踏まえて、安全管理を徹底したうえで、視察に訪れていたということです。NHKの映像にも、今回、銃撃を受けた中村さんの車と同じナンバーの車が写っていて、その後ろには、銃を持った警備員が乗った車が同行しています。

また、現地では、山岳地帯の急激な雪どけなどによって、たびたび洪水が発生していましたが、中村さんは、国連と協力して訓練センターを立ち上げ、洪水で破壊された堤防や橋の修復を担う技術者の研修など、人材育成にも熱心に取り組んでいました。

中村さんは、NHKのインタビューに対し、アフガニスタンは、地球温暖化の被害が最も著しい国の1つだと指摘したうえで、「アフガニスタンは戦争では滅びないが、干ばつで滅びる可能性がある。すべての人が力を合わせてこの問題に取り組み、アフガニスタンの深刻な状態に目を向けることが大事だ」と述べ、国際社会に協力を呼びかけていました。

人道援助関係者の死傷者が増加

国連によりますと、アフガニスタン国内で死亡やけがをしたり、誘拐されたりした人道援助関係者の数は、ことし8月の時点で合わせて91人に上り、去年1年間の76人をすでに上回っています。このうち、ことし死亡した人は、27人に上るとのことです。

先月24日には、首都カブールで国連の車両をねらった爆発があり、アメリカ人1人が死亡しました。

医師銃撃で情報収集 政府

時事通信 2019年12月04日17時42分

菅義偉官房長官は4日の記者会見で、アフガニスタン東部で活動を続けるNGOの現地代表の中村哲医師が銃撃されたとの情報を受け、「事案は承知している。第一報を受け、外務省に領事局長をヘッドとする対策室、在アフガニスタン大使館に現地対策本部を立ち上げ、被害につきさらなる情報収集を行っているところだ」と述べた。

「大きな存在、日本にも損失」 中村医師の知人、死悼む

時事通信 2019年12月04日21時14分

「大きな存在を失い、アフガニスタンにも日本にも損失だ」。取材などで中村哲医師と面識があったジャーナリストの常岡浩介さん(50)は突然の死を惜しんだ。常岡さんによると、中村さんは「(インド独立運動指導者の)マハトマ・ガンジーのようだ」と言われるほど地域に溶け込んだ質素な生活を送り、民族衣装を身に着け現地の言葉も完璧だったという。

アフガンの支援先では、他のNGOのように厳重な護衛を付けず、「絶対に武装はしない」と周囲に語っていた。食事にも無頓着で、常岡さんが東部の都市ジャララバードにある自宅を訪ねた

際は、真っ暗な部屋でふりかけご飯を食べていたという。

常岡さんは、「穏やかな人だったが、怒る時はとても怖い。素晴らしい人に限って早く亡くなってしまい、悲しい」と涙声で語った。

アフガンで地雷回避教育などに取り組むNGO「難民を助ける会」（東京）の堀江良彰専務理事（51）は、「あそこまで中に入り込める人はいない。現地での信頼も厚く、本当に別格な方だった」と敬意を表した。

今でも覚えているのは、堀江さんが同会の活動に携わって間もない約20年前、既にアフガンで実績を積んでいた中村さんとテレビ番組で共演したときのこと。「当時から寄り添おうとする気持ちが強かった。言葉に迫力があり、重みがあった」と振り返った上で、「信じられない思いだ」と悲しんだ。

「足元から震えが」 中村医師と交流あった澤地久枝さん

朝日新聞デジタル 2019年12月4日 17時33分



ノンフィクション作家の澤地久枝さん

アフガニスタンで4日、銃撃され死亡した医師の中村哲さんの著書「人は愛するに足り、真心は信ずるに足る」の聞き手を務め、一緒に講演もするなど親交のあったノンフィクション作家の澤地久枝さんが朝日新聞の取材に対し語った。

◇

本当に寒気がします。中村先生のご健康を心配していましたが、まさかこんなことが起きるなんて想像もつきませんでした。何ということでしょう。どういう人が何のためにしたのかわかりませんが、今まで長年にわたって、そしてこれからもアフガニスタンのために、聴診器だけでなく井戸を掘ったり、重機も操縦されたりして日本人として尽くされてきた。それを理解されずにどれだけ残念か。いや、本当に足元から震えがのぼってきます。東京からですが、できるだけサポートをしたいと思ってきましたが何と残念なことでしょう。私自身の気持ちの整理がつかず、言葉もないというのはこのことです。でも、中村先生が何より残念でいらっしゃるでしょう。

「許せない気持ちでいっぱい」 中村さん銃撃死で女優の吉永さん

2019/12/4 21:57 (JST)12/4 22:27 (JST)updated 共同通信社



吉永小百合さん

16年にペシャワール会が出したアフガニスタンでの中村哲さんらの活動を紹介したDVDで、ナレーションを担当した女優の吉永小百合さんは4日、中村さんが銃撃され死亡したとの知ら

せに「許せないという気持ちでいっぱいです」と語った。

吉永さんは「中村さんらがアフガンの人々のために現地で続けてきた平和活動に共感していました」と話した。

DVDのタイトルは「アフガニスタン 用水路が運ぶ恵みと平和」。中村さんらの現地での農業用水路の建設作業を紹介したもので、吉永さんが「用水路は、地域や日本の人々の謙虚な祈りに支えられて実現した」という中村さんのメッセージを朗読している。

吉永小百合さん「本当に残念で、悔しい」中村医師を悼む

朝日新聞デジタル 2019年12月4日 20時54分



俳優の吉永小百合さん

アフガニスタンで人道支援に取り組んできたNGO「ペシャワール会」（事務局・福岡市）の中村哲さん（73）が4日、亡くなった。中村さんの生き方に感銘を受けてきた多くの人たちが、突然の知らせに驚き、悲しんだ。

緒方貞子さんと2人「同時期に失い、大きな損失」

2009年から1年間、国連アフガニスタン支援ミッションの政務官を務めていた上智大学の東大教授は、「日本人に好意を持つアフガン人が多いのも、中村医師の活動が広く知られているから。中村さんと一緒に働いた若者はみんな誇りに感じてた」と話す。

2001年9月11日の米同時多発テロ後、米英軍はアフガニスタンを空爆した。タリバーン勢力は05年ごろから息を吹き返し、08年には国土の7割が「政府ですら危なくて行けない地域」だったという。干ばつも進み、水がなくても育つケシだけに頼るようになり、麻薬産業だけで生きる若者も増えていった。

「その中で、中村医師は灌漑（かんがい）事業がいかにも重要かを、村長、市民、時には反政府勢力を1人ずつ説得し、進めていった。他の人にはまねできないこと」と言う。

先日は国連難民高等弁務官だった緒方貞子さんが亡くなった。「アフガニスタンをいかに良くすべきか考えていた2人を同時期に失ったことは大きな損失だ」

■吉永小百合さん「自分たちができることを」

ペシャワール会の中村哲医師のアフガニスタンでの活動に共感し、現地の様子を記録したDVDで朗読を担当した俳優の吉永小百合さんが、中村医師の死去を受けて、朝日新聞の取材に対し語った。

◇

中村さんのアフガンでのプロジェクトを応援してきました。どうしてこんなことになったのかという思いです。世界を幸せにしようと思って頑張っていたら、こんな形で命を落とされたことは、本当に残念で、悔しい思いです。私たちは、中村さんの死をしっかりと受け止めて、自分たちができることをやって

いかなければならないと改めて思いました。

「医師でありながら医者以上の活動していた」

アフガニスタンなどで人道支援をしている国際NGO「JEN」(東京都新宿区)の木山啓子事務局長は4日、「あまりにショック」と話した。「世界にとってあまりに大きな損失です」

木山さんはアフガニスタンやパキスタンなどで、紛争や災害の被害に遭った人々の支援をしており、これまでに在日アフガニスタン大使館で開かれた集いなどで中村さんと会う機会があったという。現地の人々の健康を考えるなら、診察だけではなく、穀物の栽培や灌漑(かんがい)など生活の基盤を支えることが必要で、持続可能な解決策を探ることが大切だと言われた。「支援のあり方を一方的に教えてもらった。私は中村さんのファンのようなもの」と振り返る。

今年10月に中村さんがアフガニスタンから名誉市民権を授与されると、JENのアフガニスタンスタッフも自分のことのように喜んでいったという。「中村さんは医師でありながら医者以上の活動をしていた。素晴らしい人をこんな形で失うなんて、残念でなりません」

「現地の人が自立して暮らせるよう活動してきた人が…」

10年以上前にペシャワール会の会員になった秋田県大館市の元高校教員山木敏子さん(72)はテレビのニュースで銃撃事件を知った。「現地の人が自立して暮らせるように活動してきた人が殺されるなんて、ショックとしか言いようがない」と肩を落とした。

活動に共鳴し、中村さんの活動を紹介するDVD「アフガニスタン 用水路が運ぶ恵みと平和」を地元で上映したり、著書を高校に贈ったりした。本人に会ったことはないが、毎年届く会報でアフガンでの活動を見守ってきた。「中村さんにこそノーベル平和賞をもらってほしかった」と悼んだ。

吉永小百合さん「許せない気持ちでいっぱい」 中村医師銃撃

産経新聞 2019. 12. 4 22:16

2016年にペシャワール会が出した中村哲さんらの活動を紹介したDVDで、ナレーションを担当した女優の吉永小百合さんは4日、中村さんが銃撃され死亡したとの知らせに「許せないという気持ちでいっぱいです」と語った。

共同通信の取材に対し、吉永さんは「直接お目にかかったことはないのですが、中村さんらがアフガンの人々のために現地で続けてきた平和活動に共感し、何とか応援したいと思っていました」と話した。

銃撃について「はっきりしたことは分かりませんが、とにかく、とんでもないことが起きてしまった。世界中がどんどん悪くなっているという気がします」と述べた。

DVDのタイトルは「アフガニスタン 用水路が運ぶ恵みと平和」。吉永さんが「用水路は、地域や日本の人々の謙虚な祈りに支えられて実現した」という中村さんのメッセージを朗読する場面などが収められている。

国連、中村医師殺害を非難「無分別な暴力行為だ」

日経新聞 2019/12/5 4:33

【ニューヨーク=吉田圭織】アフガニスタンで銃撃され、死亡し

た中村哲医師(73)の悲報を受け、国連アフガニスタン支援団(UNAMA)は4日、殺害を「非難し、嫌悪する」とツイッターに投稿した。「最も弱い立場のアフガン人を助けることに人生の大半をささげたものに対する無分別な暴力行為だ」として批判した。



国連は中村医師の殺害を非難した

国連人道問題調整事務所(OCHA)も中村氏の殺害を「嫌悪する」との声明を出し、「アフガニスタンの人道支援団体らは支援を必要とする人々のために休みなく活動している」と強調した。

国連の事務次長で軍縮担当上級代表を務める中満泉氏もツイッターで「誰よりも長くアフガンを支援した中村医師は私たちに国際協力のあり方を示してくれた」と投稿した。

アフガニスタンでは11月下旬にも、国連開発計画(UNDP)の職員1人が殺害され、同国当局と国連が事件を調査している。

中村医師は「アフガン市民に人生をささげた人」 国連 銃撃を非難

産経新聞 2019. 12. 5 09:45

【ニューヨーク=上塚真由】アフガニスタンで日本人医師の中村哲さん(73)が武装勢力に襲撃され死亡したことについて、国連のドゥジャリク事務総長報道官は4日、「最も弱い立場にあるアフガンの市民を助けることに人生の大半をささげた人に対する無差別の暴力行為だ」と述べ、事件を非難した。定例記者会見で語った。

また、ドゥジャリク氏によると、国連人権問題調整室(OCHA)は、アフガンの人道支援に従事する人々は休むことなく支援活動を行っている」と強調し、中村さんに対する銃撃について強い非難を表明した。

「偉大な友人だった」 中村医師を追悼—アフガン大使館

時事通信 2019年12月04日 22時41分

在日アフガニスタン大使館は4日、中村哲医師(73)が銃撃され死亡したことを受け、ホームページ上で中村医師を「アフガニスタンの偉大な友人」とし、「大変悲しみに包まれている」などと追悼するコメントを掲載した。

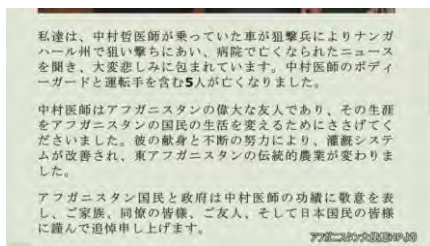
同大使館は「生涯をアフガニスタン国民の生活を変えるためにささげてくださった」と強調。農業支援への尽力に触れ、「献身と不断の努力により、東アフガニスタンの伝統的農業が変わった」と功績をたたえた。

「中村医師は偉大な友人」アフガニスタン大使館声明

NHK12月4日 18時50分



東京にあるアフガニスタン大使館はホームページに中村さんとガニ大統領が並んでうつった写真とともに日本語で声明を出しました。



声明では「中村医師が病院で亡くなられたニュースを聞き、大変悲しみに包まれています」としたうえで、「中村医師はアフガニスタンの偉大な友人であり、その生涯をアフガニスタンの国民の生活を変えるためにささげてくださいました。彼の献身と不断の努力によりかんがいシステムが改善され、東アフガニスタンの伝統的農業が変わりました」とその功績をたたえています。そして「アフガニスタン国民と政府は中村医師の功績に敬意を表し、ご家族、同僚の皆様、ご友人、そして日本国民の皆様に謹んで追悼申し上げます」と結んでいます。

安倍首相「本当にショック」

安倍総理大臣は4日夜6時半すぎ、総理大臣官邸で記者団に対し、「中村先生は医師として、医療分野、かんがい事業などで、アフガニスタンで大変な貢献をしてこられた。危険で厳しい地域にあって本当に命懸けでさまざまな業績をあげられ、アフガニスタンの人々からも大変な感謝を受けていた。このような形で亡くなられたのは本当にショックで、心からご冥福をお祈りしたい」と述べました。

JICA「痛恨の極み」

中村哲さんが取り組んでいたかんがい事業に、一時、関係していたJICA＝国際協力機構は、「現地に入り込み、長年にわたって地域住民と信頼関係を築き、アフガニスタンの発展と住民生活の向上のために尽力され、着実な成果をあげてこられた中村医師が、このような形で落命されたことは誠に痛恨の極みであり、襲撃を行った犯人に対して怒りを禁じえません。JICAは中村医師のアフガニスタン支援に対する遺志を受け継ぎ、今後もアフガニスタンの発展と平和のために引き続き貢献してまいります」とするコメントを発表しました。

米 臨時代理大使「日本人の善意」

日本に駐在するアメリカのヤング臨時代理大使は自身のツイッターに日本語で投稿し、「暴力という卑劣な行為で命を落とされた医師の中村哲氏と現地関係者の訃報に接し、ご家族と友人の皆様に心よりお悔やみ申し上げます。中村医師のアフガニスタンでの医療支援活動は、まさに日本人の善意を示すものでした」とコメントしました。

中村医師しのび国内外から追悼の声

NHK2019年12月5日 12時33分



混乱が続くアフガニスタンで襲撃され死亡した中村哲医師。長年現地で用水路の整備や農地の再生などに力を尽くしてきた功績をしのび、国内外から犯行を非難する声とともに追悼の声が上がっています。

国連「無分別な暴力行為」

国連のデュジャリック報道官は、4日の定例記者会見の冒頭、声明を読み上げ、「われわれは人々の尊敬を受けていた中村哲氏の殺害を非難する。アフガニスタンでもっとも弱い立場にいる人々を助けることに人生の大半をささげた人間に対する無分別な暴力行為だ」と述べて、中村さんの功績をたたえるとともに殺害を強く非難しました。

報道官はさらに、アフガニスタンでは、UNDP＝国連開発計画のスタッフが先月首都カブールで殺害されたことに改めて言及し、2日、国連アフガニスタン支援団の山本忠通事務総長特別代表が政府の治安責任者に面会し、人道支援関係者の安全確保に万全を期すよう要請したばかりだったことを明らかにしました。

母校では黙とう



福岡県古賀市にある中村さんの母校の古賀西小学校では、5日朝、授業の前に全校放送で中村さんのこれまでの活動や取り組みなどが紹介されたあと、子どもたちが黙とうをささげました。

古賀西小学校では、平成18年にNHKの番組で中村さんが訪れたことをきっかけに、子どもたちが毎年、「ペシャワール会」への募金を行っていて、4日も募金活動を行っていたということです。

募金活動に参加していた6年生の男の子は「人が苦しんだり、困っていたりしたら助けてあげてくれることを中村さんから学びました。中村さんのように、人の心を少しでも温められるような大人になりたい」と話していました。

阿部勝校長は「中村さんが亡くなったことを知って、泣いている子もいました。これからも中村さんの活動や、人のために尽くすことのすばらしさを子どもたちに伝えていきたい」と話していました。

一方、中村さんの自宅がある福岡県大牟田市の関好孝市長は、4日夜、「アフガニスタンの復興と平和に大きく貢献した中村医師は、大牟田市民の誇りです。ご冥福をお祈ります」というコメントを出しました。

地元資料館に遺影飾る

北九州市に住む中村さんの親族などは中村さんにゆかりのある地元の資料館に遺影を飾ることを決めました。

中村さんは、北九州市若松区出身の芥川賞作家、火野葦平のところで、若松区には火野葦平の資料館があります。

中村さんのいとこの玉井史太郎さん(82)は火野葦平資料館の坂口博館長(66)と話し合い、5日午後、資料館に中村さんの遺影を飾ることを決めました。

中村さんは幼いころ、若松区に住んでいたということで、2人は中村さんがことし8月に地元で行った講演会を振り返り、「最後

の講演会になるとは思わなかった」とか「惜しい人を亡くした」などと語り合っていました。

いとこの玉井さんは「惜しいという気持ちはあるが、彼のやってきた仕事、彼の存在は改めて大きかったと感じている」と話していました。

資料館の坂口館長は「とても悲しい。中村さんの義きょう心は、北九州市若松区が培ったものと言っても過言ではないと思う。市民には誇りと思ってほしい」と話していました。

アフガニスタン人から悼む声

日本国内に住むアフガニスタン人の間では悲しみが広がっています。

アフガニスタン東部のナンガルハル州ジャララバード出身で、佐賀県多久市で貿易会社を営むルジー・ハーンさん(46)は「中村さんが用水路などを整備してくれたおかげで畑ができて、コマや野菜を作ることができるようになった」として、中村さんの活動をきっかけにふるさとの暮らしが大きく向上した、と感謝の言葉を述べました。

そして、ルジーさんは「中村さんは現地の人から『カカムラ』さんと呼ばれている。カカはパシュトゥ語で『おじいさん』という意味で、みんな家族や親戚のように慕っていました」と話していました。

SNS上には、アフガニスタンで使われているダリー語やパシュトゥ語で中村さんの死を悼むメッセージが数多く投稿されていて、ルジーさんによりますと「街や通りに『中村』という名前をつけたい」といった投稿もあるということです。

ルジーさんの息子のジッシャン・ハーンさんは「1度、アフガニスタンで中村さんに会いました。あれが最後だったと思うと悲しくなります。残念のひとつです」と中村さんの死を悼んでいました。

村医師銃撃死 上皇ご夫妻、活動に関心

毎日新聞 2019年12月5日 東京朝刊

中村哲さんは、上皇ご夫妻と長年の交流があり、一時帰国した今年3月6日にも皇居・御所(現在の吹上仙洞御所)で懇談した。4月には毎日新聞の取材に対し、天皇を退位される上皇さまと上皇后美智子さまについて「私たちの仕事を理解していただいたことは大きな励みとなってきた。これからも見守っていただけたらありがたい」と語っていた。

中村さんは2004年5月、御所に招かれ、ペシャワール会がアフガニスタンで始めた用水路建設などを説明…

残り 251 文字 (全文 460 文字)

安倍首相「アフガンで大変な貢献」 中村医師死亡に

時事通信 2019年12月04日 19時26分



アフガニスタンで医師の中村哲氏が銃撃されて死亡したのを受け、記者団の質問に答える安倍晋三首相＝4日午後、首相官邸

安倍晋三首相は4日、アフガニスタン東部で活動するNGOの

現地代表の中村哲医師が銃撃され、死亡したことを受け、首相官邸で記者団に「本当にショックだ。心からご冥福をお祈りしたい」と語った。首相は中村医師について「医療、かんがい事業等アフガンで大変な貢献をしてこられた。危険で厳しい地域にあって命懸けでさまざまな業績を挙げ、アフガニスタンの人々からも大変な感謝を受けていた」と述べた。

「非常に悲しい」 米 국무省高官が声明 中村医師殺害

産経新聞 2019.12.5 11:40

米 국무省のウェルズ筆頭副次官補は4日、アフガニスタンで非政府組織(NGO)「ペシャワール会」現地代表の中村哲さんが殺害された事件を受けてツイッターで「非常に悲しい。われわれ全員にとっての損失だ」と声明を出した。

声明では「中村医師が行ってきた仕事は、彼を知る全ての人々を奮い立たせるものだった」と生前の仕事ぶりを称賛した。

ヤング駐日米臨時代理大使もツイッターで「親族と友人の皆さまに心よりお悔やみ申し上げる。中村医師のアフガニスタンでの医療支援活動はまさに日本人の善意を示すものだった」と哀悼の意を表明した。(共同)

中村さん追悼 アフガニスタンの和平交渉を急ぐ方針 米

NHK 2019年12月5日 5時51分



アフガニスタンで医師の中村哲さんが何者かに銃撃され死亡したことについて、現地のアメリカ大使館は、「中村さんの残したものは、アフガニスタンの人々の中で生き続ける」と追悼しました。一方、アメリカ政府は、アフガニスタンの和平交渉を担当する特使を現地に向かわせ、交渉を急ぐ方針です。

アフガニスタンの首都カブールにあるアメリカ大使館は4日夜、ツイッターで、「中村さんが愚かな攻撃を受け死亡したという悲報に接し、とても悲しい」とする声明を出しました。

さらに、「中村さんの残したものは、その愛情と献身的な活動に助けられたアフガニスタンの人々の中で生き続ける」としたうえで、日本語で「哀悼の意を表します」と投稿し、中村さんを追悼しました。

一方、アメリカ 국무省は、アフガニスタンの和平交渉を担当するハリルザド特別代表をアフガニスタンのカブールと中東のカタールに3日、向かわせたことを明らかにしました。

アメリカのトランプ大統領は先週、就任後初めてアフガニスタンを訪れ、中止されていた反政府武装勢力タリバンとの和平交渉を再開したことを明らかにしました。

ハリルザド特別代表は、カブールでアフガニスタン政府と和平交渉を加速させるための方策を話し合うほか、カタールでは、タリバン側の代表と戦闘やテロなどを減らすための具体策を話し合っています。トランプ政権としては、アフガニスタンに駐留するアメリカ軍の撤退の前提となる治安の回復に向け交渉を急ぐ方針です。